



愛知医科大学 医学部

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL:0561-62-3311(代表)

0561-61-5314(直通)

FAX:0561-62-6690

URL <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>

時
代
の
一
歩
先
へ。



愛知医科大学 医学部

AICHI MEDICAL UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE 2022

時代の、 一歩先へ。

少子高齢化社会の到来やグローバル化の進展など、

現在、医療や医学教育を取り巻く環境は著しく変化しています。

そうした中、愛知医科大学医学部では、

大規模なキャンパスの再整備や医学教育カリキュラムの改革など、

時代の一歩先を見据えた取り組みを積極的に推進。

高度で先進的な知識・技術の修得に留まらず、

「情緒と品格を備えた真の医療人」を育成するために、

愛知医科大学医学部は、たえず進化を続けています。

学是

具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学医学部のカリキュラムを修得し、卒業時に求められる能力を身につけることができる者として、次の能力を持つ者を求めています。

【求める学生像】

- 1 医学への強い志向と学習意欲を持つ人
- 2 医学を学ぶために必要な基礎学力と問題解決能力を備えた人
- 3 人間性と教養が豊かで、倫理的価値判断に優れた人
- 4 協調性を持ちコミュニケーション能力に富んだ人
- 5 誠実で常に努力を怠らない人

本学医学部が求める学生を受け入れるための入学者選抜は、次の方針により実施します。

- 1 医学部の学生として相応しい基礎的学力の到達度を確認するため、理科・数学・英語の筆記試験を実施します。
- 2 医師として求められる倫理的価値判断、感性、コミュニケーション能力などを判断するため、面接試験および小論文試験を実施します。

本学医学部の学生は、医師国家試験の合格という大きな目標の達成だけでなく、医師に相応しい教養や感性（情緒と品格）を持つことが求められます。入学者の選抜においては、基礎的学力のみでなく、思考力・表現力・学ぶ意欲・コミュニケーション能力なども重視します。また多様な学生の受け入れのため、一般選抜のほかに国際バカロレア選抜など多様な入学者選抜を実施します。

Contents

- 01 時代の、一歩先へ。
- 03 理事長・学長メッセージ
- 04 副学長・医学部長メッセージ／沿革
- 05 愛知医科大学の特色
- 07 医学教育の、一歩先へ。
 - 臨床教育
- 09 初年次教育
- 11 実習Report
- 12 医療の最前線で活躍する卒業生
- 13 学生による医学研究
- 15 医療の、一歩先へ。
 - 大学病院
- 17 わたしの、一歩先へ。
- 19 教育カリキュラム
- 21 愛知医科大学の6年間
- 23 1学年次カリキュラム
- 24 2学年次カリキュラム
- 25 3学年次カリキュラム
- 26 4学年次カリキュラム
- 27 5学年次カリキュラム
- 28 6学年次カリキュラム
- 29 医師国家試験に向けて
- 30 大学院医学研究科
- 31 国際交流
- 35 学修施設
- 37 キャンパスライフ
 - キャンパスカレンダー
- 38 キャンパスマップ
- 39 クラブ&サークル
- 41 エリアインフォメーション
- 43 マイキャンパスライフ
- 45 AMUトビックス
- 46 アクセス



理事長・学長メッセージ

理事長・学長 祖父江 元

未来をひらく新しい医科大学を目指して

1972年に建学された愛知医科大学は、2022年に開学50周年を迎えます。1980年度に大学院医学研究科、2000年度に看護学部、2004年度には大学院看護学研究科が設置され、現在は2学部・2大学院研究科体制で教育・研究活動を進めています。これまでの医学部卒業生は4,427名で、そのうち4,391名(99.2%)が医師になっており、また看護学部の卒業生総数は1,890名で、全国の病院などで看護師・保健師として活躍しています。

本学のキャンパスは、名古屋市東部に隣接する長久手市にあります。2005年に開催された万博「愛・地球博」の会場となった地であり、緑豊かな自然が残る一方で近隣には多くの利便施設がそろうなど、「住みよさランキング」で毎年上位に位置づけられる地域です。学生生活を過ごす場所として、とても恵まれた環境にあると言えます。

愛知医科大学は「良き医療人を育てて地域社会に奉仕する」という建学の精神

のもと、「社会から評価され、選ばれる医科大学」となることを目指して努力を積み重ねてきました。優れた指導スタッフによる充実した教育、臨床、研究活動に加え、ドクターヘリなど本学ならではの特色を打ち出す独自分野の構築にも積極的に取り組んできました。新しい大学病院の開院をはじめとする次代を見据えたキャンパスの再開発が2018年に完了し、さらなるステージアップを実現するべく、学内を挙げて積極的に学修環境の新たな再構築を進めているところです。

その際のキーワードとして掲げているのは、「自己実現」「独自性」「連携」です。世界を視野にこれからの医学界を担う人材を育てていくためには、個人、組織、全体の各レベルで理想が実現できる環境の充実と共に、独自性・独創性が発揮できる環境づくりや、地域や各病院、学内や大学病院内、研究などあらゆる領域での連携・協力が必要になってきます。

2021年からは、長久手市で高度急性

期を担う愛知医科大学病院に加え、愛知の西三河地域の皆様の健康を支える総合病院として「愛知医科大学メディカルセンター」を開院し、地域医療活動の充実を図っています。社会の変化の中で、新たに求められる様々な医療ニーズに対応するためには、専門医による地域医療の支援機能が重要になっています。「愛知医科大学メディカルセンター」は分院としての医療活動の中で、専門性の高い医療と地域医療のフィールドとして、若い医師らを育てられる「教育病院」としての機能も期待できると思います。

現在の医学は大変なスピードで進化を続けると共に、医療を取り巻く環境も急激な変化を遂げ、先進医療の進化も驚くほどのスピードで進んでいます。そうした時代の変化を見据え、次世代の医療を支える人材を育てていくことをわたしたちの大切な使命として、未来をひらく充実した医学教育環境を構築していきたいと考えています。



副学長・医学部長メッセージ

副学長・医学部長 若槻 明彦

コロナ禍にもしっかりと対応した医学教育の場を実現しています

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進む中で、愛知医科大学では教職員と学生が一体となり、質の高い医学教育環境づくりに向けて積極的に様々な取り組みを進めてきました。そして、学生の感染予防を最優先に考えた上で、本学がこれまで積み重ねてきた医学教育の内容を決して毀損させることのないよう、できる限りの取り組みを実施しています。

例えば、新型コロナウイルスの感染が広がりはじめた当初から学内で「対策委員会」を立ち上げ、7項目の活動基準を設けるなど具体的な施策を実施しています。それと同時に、学生たちのメンタル面でのケアも含めた充実した学びの環境づくりを実現できるよう力を注いできました。

本学ではこれまでICT設備などの環境整備にも早くから取り組んできたこともあり、オンラインでの授業なども比較的スムーズに導入が進んでいます。また、

学生たちがオンラインで多様な医学資料、教材などにもアクセスできる仕組みづくりも充実しており、コロナ禍においても、しっかりと医師としての実力を身につけられる環境が整っています。

そうした取り組みと同時に、万全の感染対策を準備した上での各種の実習や対面での授業なども進めています。具体的には、学生に事前にワクチン接種を行うといったことも予定されており、様々な制約がある中でも医師としての学び、成長を支える体制づくりに力を注いでいます。

こうした取り組みの結果、例えば医師国家試験の合格率など、学びの体制づくりによる成果は着実に表れてきています。これからの社会、地域をしっかりと支える医師を育てるべく、より充実した医学教育の場づくりを今後も進めていきたいと考えています。

沿革

- 1971●12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置認可
- 1972●4.11 医学部第1回入学式
- 1974●5.30 新附属病院使用許可
- 9.9 高等看護学院設置認可(1976.9.20 看護専門学校に改称)
- 1979●7.1 附属病院救命救急センター開設
- 1980●3.26 大学院医学研究科設置認可
- 1981●4.23 情報処理センター設置
- 1983●4.1 加齢医学研究所設置
- 4.20 メディカルクリニック開設許可
- 12.21 附属動物実験施設設置(1988.4.1 動物実験センターに改称)
- 1987●10.1 運動療育センター設置
- 1988●4.1 視聴覚教材センター設置
核医学センター設置
研究機器センター設置
分子医科学研究所設置
- 1993●6.16 産業保健科学センター設置
- 1999●12.22 看護学部看護学科設置認可
- 2001●6.16 薬毒物分析センター設置
- 2002●1.1 学際的痛みセンター設置
- 4.26 看護専門学校廃止認可
- 2003●11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 2004●4.1 医学教育センター設置
- 2008●4.1 総合医学研究機構設置
臨床試験センター設置
看護実践研究センター設置
- 2010●4.1 総合医学研究機構を改組(動物実験センター、核医学センター、研究機器センター、臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 2012●1.4 長久手市市制施行に伴う
本法人所在地名地番の変更(愛知県長久手市岩作雁又1番地1)
- 4.1 先端医学研究センター設置
- 2014●4.23 新病院(中央棟)使用許可
- 11.1 災害医療研究センター設置
- 2015●4.1 国際交流センター設置
シミュレーションセンター設置
- 2016●4.1 先端医学研究センター廃止
研究創出支援センター設置
- 2017●4.1 医学情報センター(図書館)廃止
情報処理センター廃止
総合学術情報センター設置
- 2021●3.17 メディカルセンター使用許可

愛知医科大学の特色

カリキュラムから国際交流、大学病院まで、あらゆる面で教育環境の充実に力を注いでいます。

医学教育

人が中心の医学教育

愛知医科大学医学部では1972年の開学以来、高度で先進的な知識や技術の修得に留まらず、ヒューマニズムに徹することのできる「情緒と品格を備えた医師」の育成を目指しています。

初年次教育

医学生としての意欲を高める

初年次教育

入学直後から解剖学の講義をはじめ、後学期からは生理学、生化学を開講。早期から医学の専門領域の学びを開始することで医学への関心や学修意欲を高めます。またシミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習を順次実施し、医療人・医療のあり方を学びます。

p09→

臨床教育

実践力を養う臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップA）を開始。より実習時間を増やすことで実践力を早期から養います。さらに「臨床実習入門」「基本手技・医療面接実習」といった準備教育も充実しています。

p07→

学修環境

総合学術情報センターや医心館など 学修環境が充実

総合学術情報センターには、図書館やマルチメディア教室などを設置。また、医心館や本館セミナー室には、グループ学習や個人学習ができるスペースを確保するなど、様々な面から学ぶ意欲をバックアップする施設・設備が整っています。

p35→



研究サポート

学生の研究を積極的にサポート

愛知医科大学では、多くの学生が教員の指導を受けながら医学研究に積極的に取り組んでいます。研究成果を学会で発表する際には、大学から交通費などを補助する制度も導入しています。

p13→

国際交流

7カ国9大学との国際交流

国際社会が求める医療改革への動きに的確に対応できる医師の育成を目指し、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国、ポーランド、イラン、ウクライナの7カ国9大学への留学を支援しています。国際交流センターでは、留学生との交流や異文化理解を目的としたセミナーなども開催しています。

p31→

大学病院

総合的かつ高度な

医療を学べる大学病院

愛知医科大学病院は、2014年に最新鋭の医療機器を導入した現在の病院を開院。中部地区屈指の大学病院として高度な医療を提供するとともに、学生にとって最先端の医療に触れられる学修の場として充実の教育環境を実現しています。

p15→

ドクターヘリ

愛知県内で唯一

ドクターヘリを配備

愛知医科大学病院の高度救命救急センターには、愛知県内では唯一のドクターヘリを配備。救急医療専門の医師や看護師が迅速に出動できる体制を整えています。

p16→

卒業生

全国で活躍する

4,400名以上の卒業生

開学以来、すでに4,400名以上の卒業生が全国で医師として活躍しています。地方出身者も多く、卒業後の同窓生同士の協力体制や地元医師会との関係が強固であることも愛知医科大学の魅力の一つです。

p12→

臨床教育



実践力を養う臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップA）を開始。実際の医療の現場で、知識・技能・プロフェッショナリズムを修得します。

Student Doctor

4学年次の8～9月に医療系大学間共用試験（CBT, Pre-CC OSCE）を実施。合格すると「Student Doctor」として認定。「Student Doctor」は、診療チームの一員として患者さんやご家族と直接触れ合いながら臨床実習を行います。



診療参加型臨床実習 （クリニカル・クラークシップA）

2017年度より、従来の見学型臨床実習（BSL）は診療参加型臨床実習（クリニカル・

クラークシップA（40週）へと変更。4学年次10月から全診療科で満遍なく臨床実習し、広い領域の基礎的経験を養います。

診療参加型臨床実習 （クリニカル・クラークシップB）

5学年次後学期からは、クリニカル・クラークシップB（32週）を実施。各4週間8カールの拡充した臨床実習を重要な診療科で行います。さらに深い知識と高い技能習得を目指した実習が可能になりました。

学外実習

クリニカル・クラークシップBにおける学外実習では、本学の協定病院である学外43病院のほか、新たに地域に密着した中小病院での地域医療実習も可能になりました。海外ではアメリカ・南イリノイ大学（SIU）医学部やタイ・コンケン大学医学部、ポーランド・ウッチ

医科大学など、学術国際交流協定を締結している大学での臨床実習も可能で、実習単位を認定しています。多様な臨床現場を経験することで、医療人としての視野を広げられる機会を増やしました。



より充実した臨床教育を行うための準備教育や施設が整っています。

シミュレーションセンター



臨床技能の修得および向上を目的に、医学生ばかりでなく看護学生や研修医、スキルアップを目指す医師や看護師も利用できるシミュレーションセンターを開設。高機能の人体シミュレーターを用いた各種トレーニングや基本手技トレーニングなど、実践的な教育

の場として低学年次から高学年次まで積極的に活用しています。2019年6月には、従来の470㎡から700㎡へとスペースを拡大するなど、よりいっそうの充実を図っています。

コミュニケーション演習

主要な症候の診察に必要な知識を学修し、その内容を活かした模擬診察を実施。臨床の現場で求められる知識やコミュニケーション方法などを学びます。

臨床実習入門

臨床実習を行うにあたって、診察の進め方やカルテの記載、患者さんへの説明など、臨床医学の基幹となるための診療技能を身につけます。

基本手技・医療面接実習

診療参加型臨床実習の基礎となる、診療の基本的技術、態度を修得。シミュレーションセンターの充実により、さらに中身の濃い内容を実現しています。



Message

「自分自身で考えられる医師」の育成を目指しています

内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科） 教授 伊藤 恭彦

本学部は2019年9月に世界医学教育連盟（WFME）による医学教育分野別認証を受審し、高い評価をいただきました。臨床教育においては、より実践力を重視した診療参加型の臨床実習を行い、「患者さんに寄り添い、信頼される医師」の育成を目指しています。さらに今年度からは、基礎医学と臨床医学が統合して学べる講義内容を充実。多様な学びや現場での経験を通して、ぜひ「自分自身で考察できる力」を修得してほしいと思います。



初年次教育



医学生としての意欲を高める初年次教育

時代が求める医療人を育成するための「プロフェッショナリズム1a・1b」をはじめ、1学年次から医学生としての自覚やモチベーションを高める講義や実習を積極的に導入しています。

プロフェッショナリズム1a(看護学部との合同授業)

プロフェッショナリズム

時代が求める医療人を育成するために、プロフェッショナリズム1a・1bを開講。「質の高い医療(保健・予防活動を含む)ができる医師」「コミュニケーション能力に優れた医師」「適切な意思決定のできる医師」「マネジメント能力に優れた医師」「地域社会のリーダーシップがとれる医師」の育成を目指しています。「プロフェッショナリズム」は、医師としての態度やモチベーションを高めるための科目として、4学年次まで段階的に開講しています。



医学教育センター 教授 早稲田 勝久

プロフェッショナリズム1a(医療人入門)

自らが将来どのような医学生・医師になりたいかをイメージすることで、初年次から学ぶ意欲を高める「プロフェッショナリズム1a(医療人入門)」を開講。多彩なプログラムを通して「(1)知的な運用能力としてのスタディスキル」、「(2)円滑な人間関係やコミュニケーションのためのソーシャルスキル」、「(3)科学的な理解にもとづく自己の心身の健康保持のためのライフスキル」といった3つのスキルを修得できるよう取り組んでいます。

プロフェッショナリズム1b

「プロフェッショナリズム1b」では、医師として必要となる多様な価値観や、診療に対する姿勢を理解するとともに、模擬患者さんへの医療面接、基本的な臨床の手技や知識を修得。シミュレーションセンターでの実習も

行うなど、より実践的に学べる機会を増やしました。

●多職種連携演習1

2018年度からは看護学部などと連携し、多職種との繋がりを学ぶIPE(Interprofessional Education)を導入。初年次から多職種連携について理解を深める授業も積極的に実施しています。

行動科学

医療人は単に病気をみるのではなく、「人を見ること」が大切です。「行動科学」では、心理学や神経科学、精神科学などの多様な分野を通して、人間の心や行動を科学的に理解する力を1学年次から身につけます。2学年次以降は、健康増進・疾病予防や、社会と医学の関係を考察するなど、社会医学的な観点から理解を深められるよう、より内容の充実を図っています。

1学年次から医療人・医療のあり方を学べる実習を順次実施しています。

1学年次

早期体験実習

1学年次から臨床の現場を体験できるよう、多様な実習を導入しています。

1a(シミュレーション実習・コミュニケーション演習1)

グループ学習を通して、コミュニケーションやチーム活動、能動的学修の意義や基礎を理解します。早期から医療現場を体験するにあたり、様々な人、場面でのコミュニケーションについて考え、医学生としてふさわしいコミュニケーション方法を身につけます。

1b(看護体験実習)

病院は患者さんを中心にして、多数の医療スタッフが共同で仕事をしていることを理解し、多職種連携の病棟業務を体験することで、コミュニケーションの重要性、医師としての態度、今後必要な医学的知識・技能について確認します。



1c(臨床科見学実習)

臨床診療科・臨床医の指導のもとに医療を行う上での連携の理解を深めます。臨床医の患者さんへの対応や診断、検査などを体験し、早期に医師としての思考・人間性・倫理観を身につける契機とします。

2学年次

外来案内実習

初診や再診時に診療がどのように行われ、どのような受診に関わる手続きが行われているのかを、医療者ではなく患者さんの視点から学びます。将来、医師になった時に、患者さんの気持ちに寄り添えるよう、受診時の患者さんの思いについて学びます。



チーム医療実習

チーム医療の一員として参加し、医師や他職種の業務を体験。保健・医療・福祉・介護分野など患者さんに関わるすべての人々の

役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることの重要性を学びます。

地域社会医学実習

障がい者の介護や救急医療の現場、働く人々の実態を体験することで、医師になる者としての自覚を高めるとともに、様々な人々の健康に関する悩みや苦しみを知り、地域社会における疾病予防、健康増進における医師の役割を理解します。

3学年次

地域包括ケア実習

高齢者や在宅での介護が必要な人々の生活を知り、どのように支援すれば良いのかを知るために、老人保健施設や訪問看護ステーションなどの業務を体験します。患者さんや家族の思い、多職種の役割を学ぶことで、チーム医療の実際を理解します。

4学年次

地域医療早期体験実習

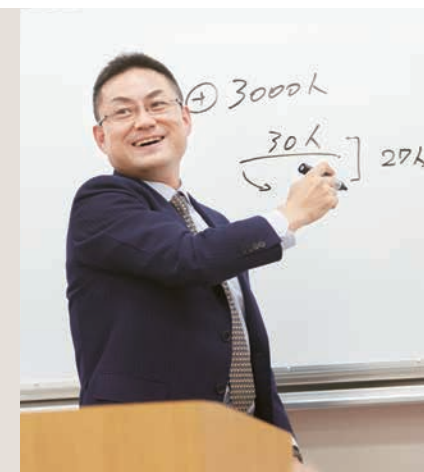
大学病院以外の一般の地域医療機関において、どのような医療が実践されているのか、医師および医療スタッフの業務を体験。実習を通してクリニカル・クラークシップでの地域医療への準備をするとともに、地域医療への学修意欲向上の契機とします。

Message

「人間」をみるという 大きな視点を身につけてください

衛生学講座 教授 鈴木 孝太

前年度は、コロナ禍でオンラインによる授業・実習を行う場合も多々ありました。前例のない年でしたが、例えば「認知症になった人やそのご家族はどんな生活をしているのか」などのテーマをもとに、各自が情報収集して発表するなど、コロナ禍においても「人間」をみるという視点を大切にしたいと授業・実習に取り組んできました。医学部を目指す皆さんには、専門的な知識や技術の修得はもちろん、「人間」をみるという大きな視点を初年次からぜひ身につけてほしいと思います。





4日間の医療キャンプを終え、現地スタッフと共に



左から、地域総合診療医学寄附講座 教授 宮田 靖志
4学年次(当時) 高橋 龍平、山口 大輝

ケニア地域医療実習(地域枠学生対象)

ケニアのHIV陽性患者診療関連施設や障がい児施設などで、患者および地域住民への医療提供、予防活動の実際を視察・体験します。社会的弱者や健康弱者への理解を深めることによって、地域医療、特に医療資源に恵まれない地域に住む人々にどのような医療活動が必要か、何を提供すれば地域社会が健康になるのかについての考察を深めます。さらに、学生ならではの視点から地域医療供給体制に対する新規の考察や提案がもたらされる可能性も期待されます。

Report

たくさんの貴重な経験ができました

5学年次 高野 梨佳 (京都府 京都市立堀川高校出身)

医療キャンプでは、日本ではまず見ないような様々な疾患を見られただけでなく、診察や検査も実際に行わせていただくなど、多くの貴重な経験ができました。またボランティアという面では、単にお金の支援だけが全てではないと痛感しました。資金援助はあくまでも自立のための補助に過ぎず、その地域が自立できるようにすることこそがまさに支援なのだと思います。私も地域枠の学生として、近い将来、限られた人、環境、資金の中でより良い医療を提供しなければならないという面では同じような問題であり、それを実感できたことは、とても大きかったと思います。

Report

自分の視野や世界が広がりました

6学年次 高橋 龍平 (愛知県 東海高校出身)

今回は地域医療実習という名で参加しましたが、実際には地域医療だけでなく、感染症についても多くのことを学べました。また、孤児院やスラムなども見学させていただき、貴重な経験ができました。村の診療所では、今まで教科書で勉強してきた疾患ばかりでなく、日本ではほとんど見られない象皮症などの疾患も見学できました。所見がわかりにくい状況でも的確な診察を行う先生方の姿を見て、将来、自分も地域でこのような存在になりたいと強く思うようになりました。実習によって自分の視野や世界が大きく広がりますので、ぜひ後輩の方にも参加してほしいと思います。



臨床講義の知識をもとに診断推論する
4学年次(当時) 高野 梨佳



森の中にあるHIV陽性児の支援学校を訪問



ガボンド村のHIV陽性児童教育施設での交流



自分の目標を見失わず、 思い続けてください

今回みなさんへのメッセージを書かせていただくにあたり、愛知医科大学の紹介というよりは今後の参考になればと思い、私の受験生時代から現在クリニック開業に至るまでをアドバイスを交えてお伝えします。私には多くの受験生のみなさんとは違い、中学から高校、大学へと受験勉強は一切せずに進学した経歴があります。法学部に入学してからは体育会スキー部に所属しスキー三昧の生活、2学年次には1年間休学しアメリカへホームステイに行き、そこの家業(木こり)を手伝い、近隣大学の聴講生となり、ダンスカンパニーでダンスに明け暮れ、冬はオーストリアに渡りスキースクールでアシスタントインストラクターとして修行しました。もともとスポーツが得意で小さい頃から様々な競技を習い、どれもそれなりに得意としてきましたが、オリンピックやプロを目指すレベルまでには至りませんでした。そこでそれまで経験してきたスポーツを活かせる職業を考えた末、父が医師ということもあり、スポーツ+医師=スポーツドクターを目指したいと思うようになりました。帰国してスキー部に戻り1年間活動した後、スキーにしばらく別れを告げ、医学部受験を目指しました。中学受験以来受験勉強をしたことがない私が、大学を辞め医学部を受験することは今考えるとかなり無謀なことでゾッとします。そこから猛勉強が始まりました。1年目は箸にも棒にもかからず、2年目は何とか模試でA判定も見られるようになり、どこかの大学には合格するかもしれないと安易に考えていましたが、結果は全滅。甘い考えを捨てさらに1年頑張り、3年間の猛勉強の末、愛知医科大学に特待生合格をすることができました。私を必要としてくれ、投資してくれる大学と勝手に思い込み、本学に決めました。受験勉強をした3年間、特に3年目は灰色の生活でした。辛い時いつも自分に言い聞かせていたことは「辞めることは簡単、本当にスポーツドクターになりたいければ、思い続けること。うまくいかなくても思い続ける。思っていれば道が開けることもある。思わなくなったらそこで終了。」

医療法人社団 大須賀医院 おおすが整形外科(愛知県東海市)
日本スポーツ協会公認スポーツドクター 愛知県サッカー協会医学委員会副委員長
大須賀 友晃 (2001年卒業)

みなさんもそれぞれきつい状況があるかと思いますが、私からのアドバイスは「自分の目指す目標を思い続けること!」頑張ってください! 24歳で愛知医科大学に入り、サッカー部を6年間、冬はプロスキー教師の免許を取りスキー場で大好きなスキーを教えるアルバイトをし、4年次には医大祭の実行委員長をさせていただき運動会のような医大祭を企画し、いつもスポーツと共にスポーツドクターを目指し、大学生生活を謳歌しました。本学のある長久手市は、都会と自然の狭間にあり絶妙なバランスが取れた場所で、勉強するには最適な場所であると思います。また小さな本学であるが故に先生と学生の距離が近く、多くの先生は快く色々な相談に乗りアドバイスをしてくれるとてもat homeな大学です。学生間の仲も良く、我々の時代は毎年生物学教授の山荘でBBQを行ったり、船釣り、潮干狩り、音楽ライブなどなど遊びも忘れず、メリハリをつけてしっかりと勉強することが出来ました。もし過去に戻ってもう一度医学部に入ることになったら、私は迷わず愛知医科大学を選ぶでしょう。それだけ快適な大学でした。30歳で医師となりスポーツ傷害に直接関わる整形外科医となり、スポーツドクターとしてスポーツに生け関わっていく事を目標にしました。先輩の先生達からは「スポーツを専門にしたいと言って整形外科になってもほとんどみんな他の専門に変わっていく。」と聞かされましたが、目標を思い続けた結果、2015年に開業し、2019年に運動施設を併設したクリニックにリニューアルする事ができました。まだまだ夢半ばですが、子供からお年寄りまでスポーツを推奨し、運動療法を中心に診療を行い、サッカーチームのチームドクターをはじめ、バレーボールチーム、陸上チーム、自転車チーム、バドミントンチームなどのアスリートをサポートし、たくさんのスタッフと楽しく仕事をしています。みなさんも自分の目標をしっかりと持ち、思い続けてください! Good luck !

TOPICS

医学部学生は優れた研究業績を挙げています

解剖学講座 教授 中野 隆

「学無止境」—学問には終止も境界も無い。これは、私の座右の銘であると同時に、解剖学講座の基本方針です。本講座では、1学年次から6学年次までの多くの学生が学術研究に励んでいます。「学無止境」の精神を継承し、解剖学の領域に留まることなく、CTや血管造影を応用した臨床解剖学、動物実験による凍傷やアルコール性神経障害に関する分子生物学的研究など、その内容は多岐に及びます。日本解剖学会や臨床解剖研究会において毎年学会発表を行い、医学雑誌に英文論文を発表するなど、本学学生による研究は学術的に高い評価を受けています。

さらに昨年春、本学医学部Medical Science Clubの学生が臨床解剖学の教科書『骨学のすゝめ』を上梓しました。本書は、基礎医学の中でも最初に学ぶ骨学について、如何にして能動的に学び、その知識を臨床医学の理解に結び付けるかを‘医学部学生の視点’で纏めた‘能動学習のための道標（みちしるべ）’です。近年の臨床実習ではclinical clerkshipが重視され、学生は医療チームの一員として診療に参加します。同様に本書は、基礎医学から臨床医学、臨床実習へと進むにつれて、学生自らがその時々の視点で解剖学を振り返りながらアイデアを持ち寄り、私たち解剖学講座教員とともに築き上げました。レントゲンやCTなどの画像も豊富に取り入れ、骨折や脱臼のメカニズム、分娩時の母体の骨盤と胎児の頭蓋との関係などについても盛り込んでいます。本書は、本学だけではなく、いくつかの他大学医学部やコメディカル系養成校において、教科書に指定されています。

本書のプロジェクトは、「学生による医学教育改革に向けた提言」をテーマとした学会発表を行い、2016年春の第121回日本解剖学会全国学術集会において学生セッション優秀発表賞、翌年春の第122回日本解剖学会全国学術集会では献体協会賞トラベルアワードを受賞しました。

「学無止境」の精神は、我が教え子たちの手によって、『骨学のすゝめ』として見事に結実しました。ぜひ一度手に取ってご覧ください。



日本解剖学会において献体協会賞と学生セッション優秀発表賞をダブル受賞

私の「学無止境」 —医学の道には終止も境界も無い—

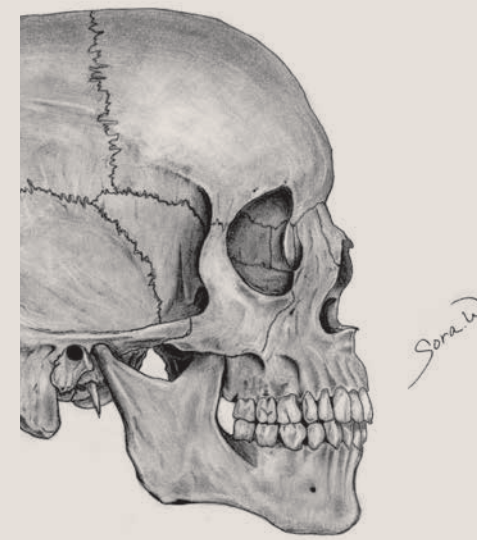
4学年次 鰐淵 空

「絵画に携わる仕事をしたい」—この夢を叶えるため、将来は美術系の道に進みたいと考えていました。脳神経外科医である父の勧めで愛知医科大学医学部に入学してからも、自分の一番の目標は「絵画に携わる仕事」です。

入学して最初に受けた解剖学の講義—いよいよ医学生になったんだという喜びと緊張を実感しつつ、講義を通して痛感したのは、解剖学書のイラストを観察することの重要性でした。以来、自分でイラストを描いて復習するようになりました。さらに、メディカルイラストレーターという職業があることを知りました。医学教育向けのイラストを描くだけではなく、臨床現場で患者やスタッフに説明する際にも重要であり、スポーツ医学や医療機器の領域でも需要が高まっています。美術的な技能だけではなく、正確な医学的知識を要求されます。

「自分が描いたイラストを医学書に掲載したい」という思いが次第に高まりました。転機が訪れたのは、2学年次の夏でした。その頃、Medical Science Clubの先輩たちが‘医学部学生の視点による教科書’『骨学のすゝめ』を作成中でした。私の描いたイラストを見解剖学講座の教授から、『本書』への協力を依頼されたのです。夏休みには解剖実習用のご遺体を観察する機会も得ることができ、数点のイラストが『本書』に掲載されました。表紙に採用された頭蓋のイラストは、私が入学して間もない頃に自学のために描いたものです。また、歴史上の医学者であるVolkmannとHaversの肖像画が、巻頭を飾っています。『本書』は昨年3月に発刊され、私のイラストの載った医学書が全国の書店に並び、他大学でも教科書に採用されているそうです。高校生の頃から抱いていた夢が、こんなに素敵で叶うとは思いませんでした。私に可能性を与えて下さった先生方、医学への進学をサポートしてくれた家族、ずっと夢を応援してくれた友人への感謝の気持ちで一杯です。

4学年次となった現在も、脳神経外科医になるという「もう一つの夢」を叶えるべく、解剖学講座において主に頭部の研究を続けています。英語論文も参考にしながら、CTを用いるなど臨床医学の視点を重視しています。最近では、学内外を問わず論文や学会発表のためのイラストのオファーも頂ける様になり、忙しいながらも充実した毎日を過ごしています。残り半分の医学生生活、さらなる高みを目指して日々精進して参ります。



「中野隆（編著）：骨学のすゝめ，p.226，2020，南江堂」より許諾を得て転載。

学生の研究を積極的にサポートしています



解剖学講座 教授 中野 隆

本学学生は優れた研究業績を挙げています

本講座では、1学年次から6学年次までの多くの学生が研究に励んでいます。その内容は特定の分野に留まることなく、肉眼解剖学、臨床解剖学、動物実験による分子生物学的研究など多岐にわたります。日本解剖学会や臨床解剖研究会において毎年学会発表を行い、医学雑誌に英文論文を発表するなど、本学学生による研究は学術的に高く評価されています。

学生が発表した英文論文

- ◆Mitsuoka H et al.: Histological study on the left common iliac vein spur. *Annals Vascular Disease* 7:261-265. 2014
- ◆Takeuchi H, Takeda Y et al.: A rare congenital extra-hepatic portosystemic shunt affecting the inferior mesenteric vein, inferior vena cava, and left ovarian vein. *Surgical Radiologic Anatomy* 36:729-732. 2014
- ◆Horai K, Furuya Y et al.: A case of pancake kidney with a single ureter in the retroperitoneal space. *Anatomical Science International* 93:563-565. 2018
- ◆Tsunekawa R et al.: A rare third head of the biceps femoris in the posterior thigh. *Anatomical Science International* 96:157-160. 2021

近年の主な受賞例

学生の学会における受賞は、10回以上になります。2017年の日本解剖学会総会・全国学術集会では、「献体協会賞」と「学生セッション優秀発表賞」を受賞しました。ダブル受賞は、全国でも本学だけです。また、「献体協会賞」は37歳以下の若手研究者を対象とするもので、学生が受賞するのは異例のことですが、本学では3回目になります。

- ◆第114回日本解剖学会総会・全国学術集会(2009年)学生セッション最優秀賞 ◆第14回臨床解剖研究会(2010年)優秀賞 ◆第52回日本脈管学会(2011年)優秀賞 ◆第117回日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年)献体協会賞(2演題) ◆第119回日本解剖学会総会・全国学術集会(2014年)献体協会賞 ◆第121回日本解剖学会総会・全国学術集会(2016年)優秀発表賞 ◆第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年)学生セッション優秀発表賞、献体協会賞

学生の研究活動を奨励する制度があります

本学では、学生が学会発表を行う際は、大学から交通費や宿泊費が全額支給されます。これは、‘学生の研究活動を奨励する’本学の特徴的な制度です。また、研究内容が優秀であると学会が認めた、あるいは英文による学術論文を発表したなどの優れた研究業績を挙げた場合、大学から表彰されます。



より充実した教育環境を実現しています

多臓器疾患に対応できる、 総合的な診療力を育成

超高齢社会においては、ひとりで多くの病気を抱えた高齢者が急増し、従来の臓器別・疾患別に特化した高度医療だけでは対応が困難になってきます。そのため、今後は多臓器にわたる複合疾患に対し、いかに適切な医療を提供していくかについて大学教育の段階から学ぶ必要があります。愛知医科大学病院ではプライマリケアセンターなどにより、臓器別・疾患別の枠を超えた総合的な視点を持つ総合診療医の育成に積極的に取り組んでいます。

一次から三次救急まで、 幅広い診断能力を修得

高度救命救急センターでありドクターヘリの基地病院でもある愛知医科大学病院は、より重篤な救急患者さんへの対応力が身につくとともに、一次・二次救急を担うプライマリケアセンターが拡大整備されることで、一次から三次救急まで幅広い疾患についても学べます。さらに、近年注目されつつある放射性医薬品による治療と診断に最適な「半導体SPECT-CT装置」を東海地区で初めて導入。高度急性期医療を担う特定機能病院として専門分野を深く学べることはもちろん、広範な診断能力を修得できる環境が整っています。

高い効果を生み出す、 教育用電子カルテ

大学病院では医師が入力する各科専用電子カルテを教育システムとしても活用できるよう整備を進めています。これが本格的に稼働すると本学の医学生、看護学生、研修医は専門医の診療経過を後追いし、典型的な疾患の診療内容について学ぶことができるようになります。さらに特殊な疾患を含む様々な症例に対する専門医の思考過程の記録は、貴重な診断ガイドとして高い教育効果を生み出すことが期待されています。



大学病院の特色

愛知医科大学病院は、2014年5月に最新鋭の医療機器を導入した現在の病院を開院。従来病棟と合わせて35の診療科および中央診療部などを有する、ベッド数900床の中部地区屈指の大学病院として、総合的かつ高度な医療を提供しています。大学病院は医学生にとって診察・手術の見学や症例検討などを行う大切な学修の場であり、充実した教育環境を実現しています。さらに大学卒業後の臨床研修では卒後臨床研修センターが核となり、研修医の育成・教育を、病院スタッフが総合的にサポートしています。



総合的かつ高度な医療を提供しています

高度救命救急センター

本センターの役割は、関連医療機関との密接な連携によって一次・二次救急医療機関をバックアップする三次救急医療施設として、地域の重症患者に対して救急医療を提供することにあります。センター開設は1979年。他の医科大学・医学部に先駆けて設置し、地域に貢献してきました。1996年には、中部地区で初めて「指肢切断」「急性中毒」「広範囲熱傷」など特定の救急疾患に対して専門的に治療

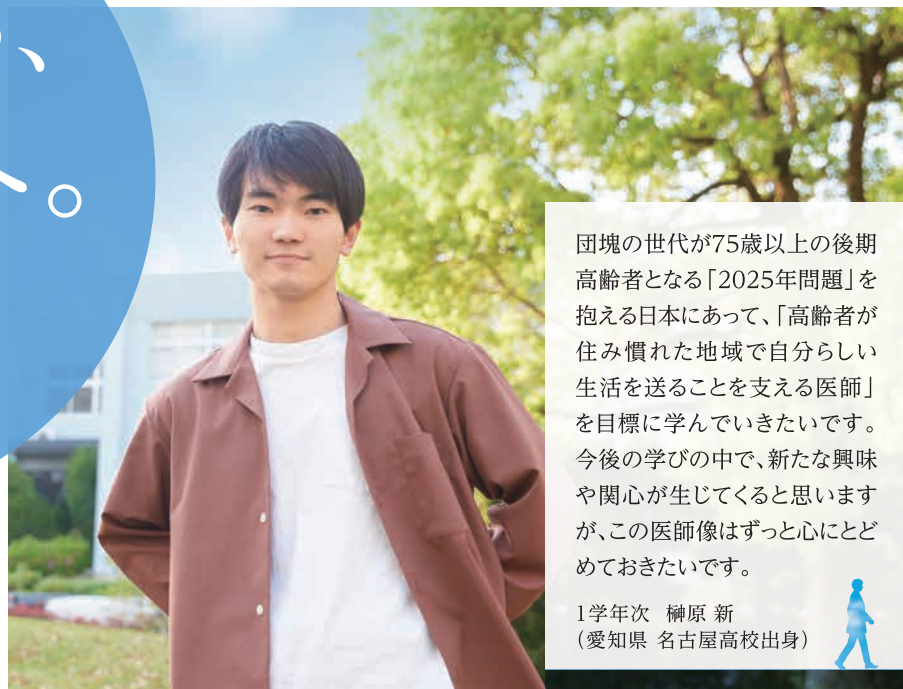
を施すことができる「高度救命救急センター」として認定され、1998年には、三次救急専用の救急蘇生外傷治療室の増設、画像診断装置の増設を行いました。また2002年からはドクターヘリ事業も開始。さらに2006年には基幹災害拠点病院に、2011年には救急告示医療機関の指定を受けるなど、ますます充実した内容のセンターとして地域の期待がさらに高まっています。

ドクターヘリ

高度救命救急センターに、救急医療対応（ER）型ヘリコプターが常時待機し、主に消防機関からの要請を受けて、救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えています。現在の活動範囲は、愛知医科大学病院から半径70km圏内が中心ですが、大災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう隣接各県（岐阜・三重・静岡・長野）のドクターヘリとも連携を図りながら、即応可能な体制を構築することとしています。

わたしの、 一歩先へ。

目指す「医師像」や目指す
「医療のあり方」について、
在学生から研修医、
医療の最前線で
活躍する医師まで、
幅広い方々に聞きました。



団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」を抱える日本にあって、「高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることを支える医師」を目標に学んでいきたいです。今後の学びの中で、新たな興味や関心が生じてくると思いますが、この医師像はずっと心にとどめておきたいです。

1学年次 榊原 新
(愛知県 名古屋高校出身)



学生生活もあと半分となり、勉強も忙しくなってきました。新しい知識を臨床実習で活かせるよう日々奮闘中です。将来は、深い知識を持つことに加え、患者さんに対して共感と傾聴を怠らない医師になりたいです。

4学年次 鈴木 雄登(愛知県 名古屋高校出身)



日々、目まぐるしく変化する世の中で常に新しい知識を仕入れ、患者さんに提供できる医師になりたいです。変化の多い時代だからこそ、患者さんには変わらない安心を感じてほしいと思っています。「あそこに行けば、あの先生がいる」そんな安心感を提供できる医師を目指しています。

6学年次 加藤 佑啓(愛知県 東海高校出身)



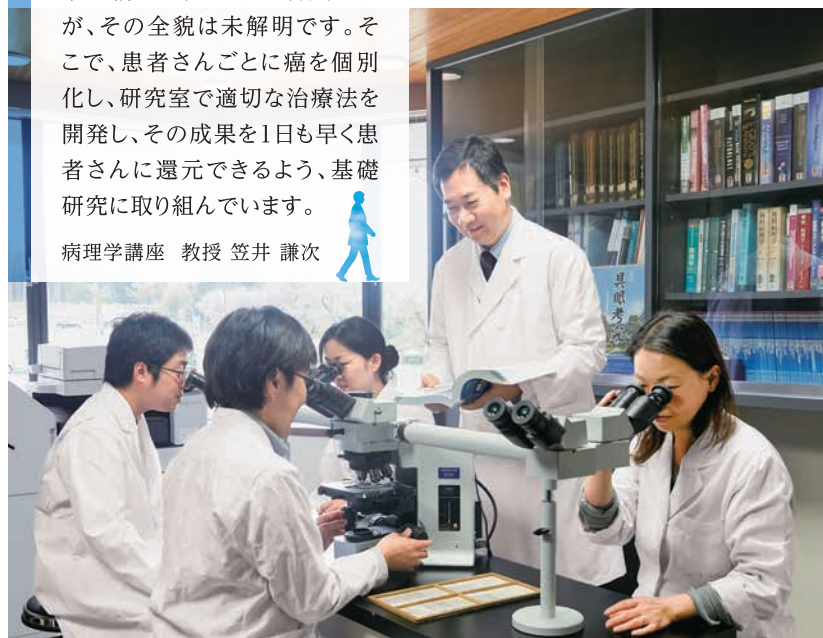
医師を目指す者として、医学を学ぶだけでなく、広い視野と世界観を持った人でありたいと考えています。

1学年次 箕浦 里衣菜
(愛知県 旭丘高校出身)



癌は患者さんごとに異なる遺伝子が傷つき発生する病気ですが、その全貌は未解明です。そこで、患者さんごとに癌を個別化し、研究室で適切な治療法を開発し、その成果を1日も早く患者さんに還元できるよう、基礎研究に取り組んでいます。

病理学講座 教授 笠井 謙次



患者さんは、病気や不安を抱えて病院を訪れます。謙虚に耳を傾け、愚直に最善を尽くす、そのために学び続ける。これが臨床医です。医療が高度に専門化しても、「心に寄り添う医療」の大切さは変わりません。

内科学講座(血液内科) 教授 高見 昭良



患者さんに対して誠実でありたいと思っています。高齢化に伴い、複雑な背景を持つ方が多い中、生物学的な考えのみにとらわれず、患者さんを総合的にとらえ、患者さんの話に耳を傾けられるような医師になりたいと思います。

6学年次 勝又 蒼穂
(愛知県 明和高校出身)



現在、臨床研修医として大学病院で経験を積み重ねています。将来、共に働く方々や患者さんに安心感を与えることができ、信頼される医師になりたいと考えています。そのためには2年間の臨床研修では、医療者の一員であることに責任を持ち、常に真摯に患者さんと向き合っていきたいと思っています。

愛知医科大学 卒後臨床研修センター
臨床研修医 小川 善之(2021年卒業)





医学部の教育理念

本学医学部の教育理念は、医学知識や技術の修得はもとより、医学を志す者として教養豊かな人間性を涵養することです。すなわち、建学の精神及び学是に基づいた科学的・倫理的判断

カリキュラム・ポリシー〔抜粋〕

医師に求められる知識・技能・態度を、段階的、スムーズに修得できるように講義および医療実習・臨床実習を1学年次から6学年次まで継続的、かつ、らせん状の学修方法にて積み重ねていきます。学修内容が真の効果的な学びとなるように講義は単なる一方向性の座学ではなく、教員との双方向性のやりとり、学生間の意見交換・議論などのアクティブ・ラーニングを6年間通して行います。また、6年間継続する医療実習および臨床実習では、常に、事前

力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成することです。

学習、実地体験、体験の振り返りのまとめとプレゼンテーションを行い、経験からの学びを深め、確実にそれらを身につけられるようにします。これらによって修得された学びは、医学的知識を評価する試験だけではなく、シミュレーションを使った技能の評価、振り返り記述や多職種を含めた多方面からの態度評価など、多面的・複合的な方法によって学修成果の達成度を明らかにします。

教育目標

本学医学部は、ヒューマニズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成することを教育目標としています。現代社会は、医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、最新の知識、技能および態度を身につけることのできる医師又は医学者を求めています。本学医学部では、これらの要請に的確に対応するため、3つの教育目標を掲げています。

1. 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたる学修の基礎をつくります。
2. 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高めます。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を涵養します。
3. 医療を予防・診断・治療から社会復帰までの包括的なものとして捉え、自然科学のみならず、その背景にある心理的・社会的諸問題をも含めて総合的に対応できる能力を涵養します。

カリキュラムの特徴

本学医学部は、時代の要請に即した授業科目を取り入れ、6年間の一貫教育としてカリキュラムを編成しています。低学年においては、一部の授業科目で少人数教育を取り入れて教員と学生との全人的接触を図っています。このことは、学生のコミュニケーション能力や問題解決能力を高めるとともに、自主性を伸ばすことにつながっています。医学部では講義や実習を通じて、基礎医学から臨床医学まで幅広い分野にわたって知識を身につけることが求められます。将来医師として活躍するためには、知識だけではなく、実習を通じて医療従事者としての責任ある態度や価値観を身につけることが大切です。このため、1学年次では本学大学病院での早期体験実習（シミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習）、2学年

次では心身障がい者施設等での実習、3学年次では老人保健施設等での実習、4学年次では学外医療機関での地域医療早期体験実習を取り入れております。また、1学年次において専門科目の解剖学、生理学、生化学を開講しています。このことは、医学生としての自覚と学習意欲を早い時期から高めることにつながっています。モデル・コア・カリキュラムに対応した教育カリキュラムとなっており、臨床医学系科目では統合型の講義が行われています。臨床実習では、近隣の医療機関の協力を得て、診療参加型のクリニカル・クラークシップも取り入れています。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学医学部では、建学の精神に基づき、新時代の医学知識と技術を身につけて科学的・倫理的判断能力および情緒と品格を兼ね備えた教養豊かな人間性を培い、地域社会に奉仕できる医師の養成を目指します。カリキュラム・ポリシーに沿ったカ

リキュラムを履修し、卒業時能力達成基準（コンピテンス、コンピテンシー）に定める項目を身につけた学生に卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与します。

愛知医科大学の6年間

良医になるための学びのステップ

医師という職業は、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢が求められます。

自ら問題を発見して自ら問題を解決する能力を高めるため、少人数のグループに分かれて、与えられた課題について調査・討論を重ねるチュートリアル教育を取り入れています。

また、信頼される医師になるには、何よりも患者さんと医療スタッフと良好なコミュニケーションを築く能力が必要です。

そのため、1学年次からコミュニケーション能力を高める教育を行っています。

学年を越えて継続的にプロフェッショナリズム、行動科学教育で医療人としての基本的価値観、資質、能力を修得します。

臨床実習教育前の低学年から実施している学内外での体験実習や見学実習の内容をさらに充実させ、最終学年まで学外での実習を取り入れます。共用試験合格後から開始される臨床実習については、全課程に診療参加型の臨床実習を導入します。

POINT

- ◎早期体験実習、専門科目(解剖学、生理学、生化学)を1学年次から取り入れている。
- ◎時代の要請に即した授業科目を取り入れている。
- ◎プライマリ・ケアを始め幅広い領域に対応できる臨床実習を行っている。
- ◎グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れている。
- ◎診療参加型臨床実習を行っている。



1 学年次は、人文・社会科学、自然科学、外国語などの科目を学び、幅広い教養を身につけるとともに、医学を学ぶための基礎を培います。少人数で行われる初年次医科学セミナーでは、各自が興味のある分野を選択し、演習・実験・実習を通して学びの技法(アカデミックスキル)を身につけます。プロフェッショナリズム1aでは、時代が求める「医療人」となるために、自分が将来どのような医学生・医師となるかをイメージし、本学で学ぶ意欲を高め、さらに知的運用能力としてのスタディスキル、円滑な人間関係のためのソーシャルスキル、また自己の心身の健康増進、疾病予防など日常生活のためのライフスキルを学修します。

プロフェッショナリズム1bでは、医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようになるために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である『プロフェッショナリズム』、『医学知識と問題対応能力』、『診療技能と患者ケア』、『コミュニケーション能力』、『チーム医療の実践』、『医療の質と安全の管理』、『社会における医療の実践』、『科学的探究心』、『生涯にわたって共に学ぶ姿勢』などについて概要を理解し、様々な医療専門職と議論をしながら学修します。早期に臨床現場を体験するために、早期体験実習としてシミュレーション実習・コミュニケーション演習1、看護体験実習、臨床科見学実習を行います。1学年次のうちから、解剖学、生理学、生化学など基礎医学系の科目を取り入れています。

2 学年次では、本格的に基礎医学系の科目が開講され、高学年次で学ぶ臨床医学と有機的に結びつく統合講義を取り入れ基本的知識を学修します。疾病の性状や病因について学ぶ病理学、薬物の作用とその生体反応について学ぶ薬理学を学修します。プロフェッショナリズム2では、医療面接に必要な基本的スキル、医学の各領域の代表的疾患の基本的病態・治療法、医療を行う上で関与している職種とその役割、チーム医療における医師の果たす役割、医師に求められる倫理規範などを学びます。社会的存在としての患者、患者をケアする医療チームのあり方を体験する地域社会医学実習、チーム医療実習および外来案内実習を行っています。

3 学年次では、疫学、環境衛生、労働衛生といった各分野における社会と医学のかかわりを学ぶ公衆衛生学や衛生学などの社会医学を学修します。

さらに、本格的に臨床医学の講義が展開されます。検査医学、症候学を学び、臓器別に内科・外科を学びます。時代の要請に即した東洋医学、高齢医学、医療安全といった科目も開講されます。また、老人保健施設などの学外での体験実習を通して、高齢者の介護を体験し医療と介護の連携について理解を深めるとともに、医学生としての自覚を深めます。

4 学年次では、さらに医学知識を深めるため多く臨床医学の講義が行われます。地域医療総合医学では、地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケアおよび地域包括ケアについて学び、近隣の医院においてプライマリ・ケアの実際を見学します。基本手技・医療面接実習、臨床実習入門では、クリニカル・クラークシップに進むための基本的な技能・態度を修得します。8月～9月に実施される医療系大学間共用試験(CBT, Pre-CC OSCE)に合格した者には、10月の白衣式で「Student Doctor」の称号が与えられ、クリニカル・クラークシップが始まります。



シミュレーターを使った基本手技・医療面接実習

5 学年次は、4学年次から引き続き大学病院で診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を行います。実際に患者さんに接して、医師にふさわしい態度や技術を身につけます。11月以降は選択制のクリニカル・クラークシップになります。また、自己の学修レベルをチェックするため、医師国家試験形式による総合試験が年3回実施されます。

6 学年次では、5学年次から引き続き選択制のクリニカル・クラークシップを行い、学外の病院での臨床実習も行います。また、医師国家試験対策として模擬試験や集中講義を取り入れています。卒業を認定するために、医学の知識を問う総合試験、臨床の技能・態度を問うPost-CC OSCEを実施します。



愛知医科大学病院では2年間、学内のみで研修を行うプログラム、2年目に20週間を市中病院で研修するプログラム、小児科または産婦人科の専門診療に特化したプログラムのうち、いずれかを選択できます。

当院は、大学病院としての高度な専門医療ばかりでなく、名古屋市北東部に隣接する市町村の地域医療から広域にわたる三次救急をも担っているため、あらゆる分野の一次、二次救急症例を始め、一例報告に値する貴重な症例まで幅広く経験できる環境が整っています。当院の当直は、内科系、外科系及び専修医の当直医が救急外来に常駐し、研修医2年目を指導、その研修医2年目が研修医1年目を指導する屋根瓦方式を採用しており、全ての救急患者をチームで診察する体制となっています。卒後臨床研修センターではセンター長および専任教員を始めスタッフ一同がメンターの役割を担っており、安心・安全な研修のみならず、生活面も含めたキャリア形成支援を行っています。



新カリキュラムと共用試験

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムを採用。医療人となるための基礎を学ぶプロフェッショナリズム、自主学習法の体得、問題解決能力の養成を目指したアクティブ・ラーニングを開講。初年次から基礎医学を取り入れ、臨床実習は4・5・6学年次に実施。

また、診療科を選択したり、学外の病院での臨床実習も取り入れて診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を充実させています。臨床実習を受けるためには、臨床実習開始前に全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる共用試験に合格する必要があります。共用試験には、コンピュータを用いた知識・問題解決能力を評価する客観試験(CBT)と態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験(Pre-CC OSCE)があり、4学年次に実施しています。

臨床研修後の専門研修プログラム

日本専門医機構により、内科や外科を始めとする19診療科が基本診療領域に位置付けられました。当院も専門医資格の取得を前提とした専門研修プログラムを設置し、専門医制度に対応しています。さらに次の段階として、専門医取得者はSubspecialtyの学会専門認定を目指すことも可能です。

また、臨床医としての経験を積みながら大学院コースを履修し、博士の学位を取得する「社会人大学院」も設定しています。

なお、臨床系女性教員の特別短時間勤務の実施や保育所の開設、病児保育対応の実施など働きやすい環境が整備され、大学全体として専門医の育成をバックアップしています。

入学早々から医学生としての
自覚が高まりました

1 学年次 佐原 佳音（東京都 吉祥女子高校出身）

愛知医科大学を卒業した父から、学生時代の様々な話を聞いて育ったこともあり、私も愛知医科大学を目指すようになりました。入学早々から解剖学や細胞生物学など専門的な授業も始まり、医学生としての自覚やモチベーションが高まりました。1 学年次のすべての科目が今後の6 年間の基礎になると思いますので、頑張って勉強していきたいです。また、医学部は生物系の科目が多く、高校で物理選択だった私にとって生物の勉強は当面の課題だと感じています。部活動はゴルフ部に入部する予定です。ゴルフは未経験ですが、活動を通して同級生や先輩と豊かな人間関係を築いていきたいと思っています。高校時代、カナダに1 年間留学していたこともあり、今後は留学制度を利用して海外の医療の現場もぜひ体験したいです。そして将来は私の目標である父のように、確かな技術を持ちながら地域の方に寄り添うことのできる医師を目指したいと思っています。



Curriculum		
■ プロフェッショナルリズム1a	■ 生体分子の化学	■ 初年次医科学セミナー
■ プロフェッショナルリズム1b	■ 細胞生物学	■ 自然科学演習
■ 多職種連携演習1	■ 物理学実験	〈物理学、化学、生命科学・生物学から1つ選択〉
■ アカデミックリテラシー	■ 化学実験	----
■ 医療のための情報学	■ 細胞生物学実習	■ リベラルアーツ
■ 医用心理学	----	■ 解剖学1a
■ 行動科学1a	■ 医学英語1a	〈哲学と医療、経済と医療、文学と医療、法学と医療、宗教と医療から2つ選択〉
■ 行動科学1b	■ 医学英語1b	----
■ 医療のための数学	----	■ 生理学1
■ スポーツ科学	■ 第2外国語	----
----	〈ポルトガル語・中国語・韓国語・ドイツ語から1つ選択〉	■ 生化学1
■ 医用物理学	----	■ 早期体験実習1a
		（シミュレーション実習・コミュニケーション演習1）
		■ 選択講座1

Pick Up Curriculum	
■ プロフェッショナルリズム1a・1b	疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学知識を学びます。また、実習を通して『コミュニケーション』と『プロフェッショナルリズム』を修得します。「次世代の医学のため無報酬で自らの身体を提供する」献体の精神に学び、医の倫理を身につけます。人体の構造の美しさ、精巧さ、多様性を学び、医療人としての観察眼を養います。「学問には終止も境界もない」ー学無止境の精神に学び、医学の奥深さを知ることになります。
■ 初年次医科学セミナー	■ 生化学1
教員がチューターとなり、学生は少人数の学習グループに分かれて学修し、大学における自己学習のための学習法を自ら体験することで協調性を養います。また、自ら問題を発見し、学修し、解決する能力をトレーニングすることにより、大学生としての自己学習の能力を修得します。	「医学知識と科学的探究心」の理解のため、生化学の基礎である生体の代謝学を学び、そのことによって、疾病の病因と病態・治療につながる基礎医学的な要素の理解・説明にもつながっていきます。生化学の講義・実習で得た知識を基にして、将来診療で経験した病態の解析につながる学修を行います。疾患を含む全ての生命現象は基本物質の相互作用と代謝の上に成立していることを学びます。
■ 解剖学1a・1b	
「医学知識と科学的探究心」のため、生体の正常な構造や機能を理解し、	

多様な知識や価値観を
身につけていきたいです

2 学年次 勝野 誠也（愛知県 滝高校出身）

1 学年次から始まった解剖学は、自分にとって受験勉強（＝点数を取るための勉強）から大学での勉強（＝将来につながるための勉強）へと、学びの根本をシフトさせるための大きな関門になったと思います。解剖学の勉強法を模索していく中で、教育熱心な教員の方々やまわりの仲間たち、先輩方から多くのことを学ばせてもらった結果、大学での勉強法を確立できたと感じています。また、看護体験実習や多職種連携を学ぶ演習があり、チームで医療にあたることや、医療における医師の立ち位置などについて、早い段階で理解を深めることができました。将来は「分野を問わず、幅広い知識をもとに判断を下せる医師」になりたいと考えています。そのためにも、今後は日頃の勉強はもちろん、社会を学べる活動やボランティア、施設見学などにも積極的に参加し、分野の好き嫌い、得意・不得意に関係なく、多くの知識や多様な価値観を得られるような大学生活を送りたいです



Curriculum		
■ プロフェッショナルリズム2	■ 生化学2	■ 統合講義（腫瘍学）
----	■ 生化学実習	■ 統合講義（炎症学）
■ 行動科学2	----	----
----	■ 薬理学	■ 微生物学・基礎感染症学
■ 医学英語2	■ 薬理学実習	■ 微生物学実習
----	----	----
■ 分子発生学	■ 分子病態学	■ 免疫学
----	----	■ 免疫学実習
■ 解剖学2（解剖実習）	■ 病理学（総論）	----
----	■ 病理学（各論）	■ 寄生虫学
■ 生理学2	■ 病理学実習	■ 寄生虫学実習
■ 生理学実習	----	----



Pick Up Curriculum	
■ プロフェッショナルリズム2	にもとついて生命事象を理解・推論する分野です。各臓器系に特徴的な生理調節機構を理解し、恒常性維持機構の破綻から疾病へ至るしくみを理解する。さらに、病態下での生理現象についての理解を進めます。
医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようにするために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である『プロフェッショナルリズム』、『医学知識と問題対応能力』、『診療技能と患者ケア』、『コミュニケーション能力』、『チーム医療の実践』、『医療の質と安全の管理』、『社会における医療の実践』、『科学的探究心』、『生涯にわたって共に学ぶ姿勢』についての理解を深め、医療専門職ならび医療専門職以外の有識者と議論をしながら学修を進めます。	■ 統合講義（腫瘍学）
■ 生理学2	医学知識と科学的探究心の理解のため、特に腫瘍の病因、病態につながる基礎医学的な要素、社会医学的背景を学び、さらに腫瘍の症候と適切な治療選択の概要、チーム医療を理解します。腫瘍の基礎医学、社会医学から臨床医学までを俯瞰的に理解します。
人体各種組織や器官、および器官系の正常機能、ならびにそれらの相互作用による生体協調や恒常性を理解し、疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を理解します。	■ チーム医療実習
生理学は生命現象を機能から追究する学問であって、論理的な思考・モデル	「プロフェッショナルリズム：チーム医療」「コミュニケーション」を理解するために、チーム医療にその一員として参加し、医師の役割や他職種の役割を体験します。保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることを学びます。

解剖実習は忘れられない 貴重な経験になりました

3学年次 堀田 春花（愛知県 愛知淑徳高校出身）

これまでの学びで特に印象に残った授業は解剖実習です。1学年次に解剖学の講義で学んだ人体の構造について、実際にご遺体を解剖させていただくことで、自分の中に知識をしっかりと定着させることができました。また、自分の知識が本当に臨床の現場で役立つという実感が湧き、将来、医師となる者として責任感を持って学ぼうと改めて決意できました。高校時代の受験勉強の時は、ひとりで取り組むことが多かったのですが、大学入学後はグループ学習の大切さが分かりました。話し合いながら学ぶことで疑問点を解決でき、教え合うことでより知識を深めることができました。3学年次からは本格的に臨床医学の講義が始まります。これまでに学んだ基礎医学の内容を生かして丁寧に深く学び、今後、臨床に出た際に役立つ知識を幅広く身につけていきたいと思っています。そして、様々な学びや経験を通して、将来の進路も少しずつ考えていきたいです。



臨床現場での実習を通して 将来の進路を見つけない

4学年次 高橋 里空（愛知県 一宮高校出身）

1・2学年次の基礎医学は、初めて学ぶ様々な概念について、理解することも覚えることも難しく感じていました。しかし、3学年次になって臨床医学を学ぶことで、基礎医学の科目同士のつながりや、「このためにあの知識が必要だったのか」ということが徐々にわかってきました。先生から「基礎医学は臨床医学を学ぶ土台になる」と言われたことが、とてもよく実感できました。新型コロナウイルスの影響でzoomによる講義が増えましたが、家で勉強しなければという焦りが逆にプラスに働き、自宅での受講や自習のスタイルを身につけることができたと感じています。現在は、クリニカル・クラークシップに参加するための共用試験(CBT)に向けて、これまで学んできたことをきちんと定着させるよう努力しています。今後は医師として必要な知識や経験を積み重ねながら、自分の将来の進路を見つけていきたいです。



Curriculum

■プロフェッショナルリズム3	■健康増進と疾病予防	■呼吸器・アレルギー学	■小児科学	■疼痛医療学
■医学英語3	■地域包括ケア実習	■内分泌・代謝・糖尿病学	■整形外科科学	■医療安全
■基礎医学セミナー	■EBM実習	■脳・神経学 (神経内科学、脳神経外科学)	■泌尿器科学	■東洋医学
■衛生学	■検査医学	■腎・膠原病学	■産科学	■高齢医学
■公衆衛生学	■消化器学	■血液・造血器学	■婦人科学	■症候学
■公衆衛生学実習	■循環器学	■精神科学	■放射線医学	■コミュニケーション演習3
■法医学			■リハビリテーション医学	■選択講座3

Pick Up Curriculum

■地域包括ケア実習
医師としての価値観・態度・姿勢を、実習施設の利用者や患者、その家族から醸成し、他職種との考えや役割を学ぶことで、チーム医療の実践を理解します。さらに、患者・家族医療チームメンバー・住民・社会との良好な関係を構築できること、プライマリ・ケアや、介護/ケアを含む様々な視点からの患者ケアの実践ができること、そして最終的に地域包括ケアの実践に参加できることを目指します。

■衛生学
特に産業保健、環境保健、母子保健、食品衛生、精神保健分野について、人の健康行動につながる要因について理解し、さらに、疾病・障害・健康問題と社会との関係や、社会における医療問題を説明できることを目指します。地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できることを目標としています。健康や疾病が、生活・労働・教育の場で

の諸活動や地域環境、地球環境と密接な関連を持っていることを具体的に学びます。医師は、疾病を治療するという働きのみではなく、人々がいきいきと生活できるよう、専門的な知識・技術を基盤とし、社会的諸関係に働きかけることを通じて職能を果たすべきことを学びます。

■基礎医学セミナー
「プロフェッショナルリズム:生涯学習」「医学知識と科学的探究心」を学ぶために、様々な分野から特定の課題を選択し、その課題について調査・研究を行います。医学の進歩は日進月歩であり、その膨大な情報から取捨選択しながら学ぶ必要があり、自ら考え、学び続ける一歩として本セミナーに取り組みます。

■血液・造血器学
血液・造血系の生理、病理、薬理を理解します。鑑別診断を含む血液疾患の症候、分子・遺伝子病態、診断、治療(造血幹細胞移植・輸血を含む)を理解します。

Curriculum

■プロフェッショナルリズム4	■耳鼻咽喉科学 (口腔外科学)	■臨床推論
■医学英語4	■麻酔科学	■地域医療総合医学
■医療と倫理	■救急医学	■地域医療早期体験実習
■選択講座4	■臨床感染症学	■臨床実習入門
■皮膚科学・形成外科学	■臨床腫瘍学	■基本手技・医療面接実習
■眼科学	■臨床遺伝学	■共用試験(CBT, Pre-CC OSCE)
		■クリニカル・クラークシップA

Pick Up Curriculum

■医療と倫理
プロフェッショナルリズムにおける、特に倫理に関わる医師としての価値観・態度・姿勢を身につけることを目標としています。さらに、コミュニケーションにおける良好な関係構築のために個人レベル、社会レベルの様々な問題を知り、「医学的知識と科学的探究心」における医学、医療を取り巻く社会における様々な問題を知り、解決するための根拠を収集し、それらの根拠を客観的に評価した上で、解決へと結びつける方法論を学びます。まず、患者の基本的権利を熟知し、これらに関する現状の問題点を学びます。また、医療と医学研究における倫理の重要性を知り、その上で倫理的、法律的、社会的な問題を様々な立場、視点から多角的に考え、ディベートにより、それらの問題に対する医師としての判断をどのように導くか、論理的な思考力とコミュニケーションを身につけることを目的としています。

■地域医療総合医学
地域医療とは、対象とするコミュニティを特定し、そのニーズを明らかにし、その地域で包括的な医療を提供する医師として幅広い診療を提供するとともに、プライマリ・ヘルスケアの視点を持って地域全体の健康を目指して医療活動することです。地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケアおよび地域包括ケアについて学びます。

■クリニカル・クラークシップA
「Student Doctor」の認定を受け、臨床実習を行います。学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけでなく、基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。



患者さんにしっかり 寄り添える医師になりたい

5学年次 丹羽 永理奈（愛知県 稲山女学園高校出身）

4学年次の10月からクリニカル・クラークシップAが始まりました。実際の臨床現場で学ぶことができ、日々医師に近づいていると実感しています。毎日、担当患者さんの診察を行い、変化を主治医の先生に報告したり、カルテに記載したりします。その内容をカンファレンスで共有し、今後の治療方針を考察しています。学生の立場ですが、ひとりの医療者として役割を与えていただいているので、常に主治医になった気持ちで臨んでいます。実習中、落ち込んでいる患者さんと2人きりになり、どのように声をかければ良いのか戸惑ったことがありました。しかし指導医の先生が丁寧に病状を説明し、今後の方針についてご家族も一緒に考えていく中、患者さんが少しずつ元気になっていくのがわかりました。今後もこのような生きた経験を積み重ねながら、患者さんを主体としたチームワーク作りなど、多くのことを学んでいきたいです。



臨床の現場の難しさと 面白さを実感できました

6学年次 鈴木 緑吹（愛知県 旭丘高校出身）

もともと他大学で医師以外の医療職種について学んでいましたが、医師になれば自分ができることの幅や可能性が広がると考え、愛知医科大学に入学しました。臨床実習では、様々な診療科をローテートする中、新たに興味を持った科などがあり、講義だけでは分からない臨床の現場の面白さを感じました。実際に患者さんの状態を見極め、治療計画を作成することはとても難しいのですが、学生とはいえ患者さんを診させていただいている以上、真剣に向き合わなければならぬという気持ちで、一生懸命取り組んでいます。また、4学年次までに講義や教科書などで学んできた基礎医学や臨床医学の知識が、臨床現場での内容の理解にとっても役立っています。今後も、これまでに学んできた知識を、いかに患者さん一人ひとりに生かせるかということを意識しながら実習に臨みたいと思っています。そして将来的には、人として尊敬され、信頼される医師を目指したいです。



Curriculum

- クリニカル・クラークシップA
- クリニカル・クラークシップB

Pick Up Curriculum

■クリニカル・クラークシップA、B
学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけ

でなく、基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。
クリニカル・クラークシップBでは、学生自ら選択する診療科で実習を行い、一部の期間には学外の協力病院を選択し実施しています。



Curriculum

- クリニカル・クラークシップB
- Post-CC OSCE
- 総合試験

Pick Up Curriculum

■総合試験
卒業を認定するための医学知識を問う試験です。医師国家試験と同じ形式で、医学全般にわたる幅広い知識が求められます。

■Post-CC OSCE
卒業を認定するための技能試験です。模擬患者を前に模擬診察を行います。医療面接から始まり、患者への接し方や診察手技が正しく行えるかが問われます。



医師 国家試験

基礎医学・臨床医学・社会医学すべての医学関連科目が出題範囲であり、科目ごとの試験ではなく、すべての科目を取り混ぜた総合問題形式で2日間、計400題の選択肢問題で行われます。医師として知っておくべき内容を出題するとして、概ね4年に1度「医師国家試験出題基準」が改訂され、そこに挙がっている項目、疾患などを基本として出題されます

医師国家試験に向けて



近年の医師国家試験では、臨床現場での的確な処理能力などが求められるようになり、より総合化した幅広い知識が必要になってきています。そのため、初年次から大学病院での体験実習を取り入れ、4学年次から6学年次までは臨床実習を実施しています。臨床実習は診療参加型の実習であり、5学年次後半からは実習する診療科を自ら選択でき、一部の期間は学外の病院を選ぶこともできるなど、臨床実習を重視したカリキュラムになっています。6学年次には、これら臨床実習の集大成となる臨床技能試験のPost-CC OSCEを実施し、総合的な医学知識を問う総合試験を実施しています。総合試験は医師国家試験と同じ形式で実施します。また、模擬試験や集中講義などの医師国家試験に向けたカリキュラムや、グループ学習を取り入れてグループごとに勉強会室を提供するなど、様々な面から万全の国家試験対策を実施しています。

国家試験対策委員長からメッセージ

全員が医師として
スタートラインに
立てるように

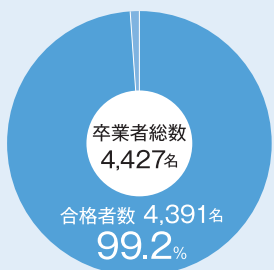
6学年次 河野 文哉
(大阪府 清風高校出身)



本学部では、教員と学生で「国家試験対策強化委員会」を組織し、教員・学生間で密に連絡を取りながら国家試験に向けたカリキュラムを組んでいます。また5学年次のうちから6学年次と同じ学内試験や模試を受けることで、早期から勉強の習慣や環境づくりができることも特長のひとつです。医師になる上では国家試験はスタート地点であり、通過点のひとつに過ぎません。大切なのは、医師となり、患者さんのためになることです。そのためにも全員合格を目指して頑張ります。

医師国家試験 高水準の合格率

卒業生合格状況



本学部ではカリキュラムや学修環境の整備などによって学修効果を上げ、医師国家試験合格率が高い水準で安定することを目指します。なお、現在までの卒業生全体4,427名のうち4,391名(99.2%)が国家試験に合格し、医師として活躍しています。

医師国家試験合格状況

	新卒		既卒		全体	
	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率
第113回 (2019年)	101 107	94.4%	3 11	27.3%	104 118	88.1%
第114回 (2020年)	98 104	94.2%	8 15	53.3%	106 119	89.1%
第115回 (2021年)	107 109	98.2%	8 13	61.5%	115 122	94.3%

医師国家試験合格率 (2020年度の新卒)

98.2%

本学部の医師国家試験の合格率は年々上昇。2020年度の新卒は98.2%でした。この数字は私立29大学中3位。極めて重要な1学年次の教育を充実させ、その後へつなげるシステム、学生一人ひとりをしっかりサポートする体制が功を奏しました。

大学院医学研究科



これからの医療・医学界において リーダーシップを発揮できる研究者を養成します

大学院医学研究科(博士課程)の教育研究上の目的は、「国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること」です。この医学研究科は、「基礎医学系」と「臨床医学系」の2つの専攻系から成ります。「基礎医学系」は13の授業科目、「臨床医学系」は31の授業科目でそれぞれ構成しています。各専門分野においては、高度で先端的研究を展開するとともに国際的レベルの研究を行う能力を有する研究者の養成を目指しています。このため、「基礎医学専門研究者養成」と「先端的臨床研究者養成」の2つのコースを設け、どちらか1つを選択してもらいます。また、夜間にも授業を開講して、働きながら高度の研究能力を身につけようとする人を、社会人学生として積極的に受け入れています。

博士課程

専攻	授業科目			
基礎医学系	●解剖学 ●生理学 ●生化学 ●薬理学	●分子医科学 ●病理学 ●感染・免疫学 ●加齢医科学	●衛生学 ●公衆衛生学 ●法医学 ●医学・医療教育学	●細胞生物学(生物学)
臨床医学系	●内科学 ●精神科学 ●小児科学 ●皮膚科学 ●放射線医学 ●総合医学 ●医療薬学 ●輸血・細胞治療医学 ●睡眠医学	●外科学 ●脳神経外科学 ●整形外科科学 ●泌尿器科学 ●眼科学 ●耳鼻咽喉科学 ●産婦人科学 ●麻酔科学 ●救命救急医学	●リハビリテーション医学 ●形成外科学 ●口腔外科学 ●病理診断学 ●臨床感染症学 ●新生児学 ●がん治療学 ●緩和・支援医療学 ●統合疼痛医学	●災害医学 ●戦略的先制統合医療・健康強化推進学 ●医療安全管理学 ●造血細胞移植・細胞治療情報管理学(連携大学院)

国際交流



国際的かつグローバルな視野を養うために

現在、本学医学部では、教育・研究の水準を高めることを目的とし、アメリカ、ヨーロッパ及びアジアの9大学（地図参照）と学術国際交流協定を締結し、国際交流活動を広く展開しています。そのうち以下の6大学の医学部とは、学生の交流プログラムを組み、世界各地の医療や医学教育の現場を体験できる機会を設けています。

【アメリカ】南イリノイ大学(SIU)医学部、バーモント大学(UVM)医学部 【ドイツ】ルール大学(RUB)医学部

【タイ】コンケン大学(KKU)医学部 【ポーランド】ウッチ医科大学(MUL)医学部、ポズナン医科大学(PUMS)医学部

本学の学生の交流プログラムでは、主に5学年次の学生が現地に於て約4～8週間の臨床実習を行います。さらに、南イリノイ大学医学部では、3・4学年次の学生を対象とした3週間の「SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース」も用意しています。多様なプログラムを運用することで、国際的かつグローバルな視野を養う場を多く提供し、国際交流の一層の活性化を推進しています。

国際交流センター長 Message



国際的かつ
グローバルな
医療人を
目指してほしい

国際交流センター長
渡辺 秀人 教授

国際交流センターは、国際的かつグローバルな視野を有する医療人の育成を目指しています。教員の海外派遣、外国人研究員の支援、教職員の語学能力の向上など、様々な事業に取り組み、学内外の活発な国際交流を行っています。なかでも学部学生の海外派遣事業は「世界の広さ」と「地球の小ささ」を同時に実感できる貴重な機会を学生に提供しています。世界共通の医療人としての資質・姿勢と地域ごとの医療の差異・特徴を学ぶことは人生の貴重な経験となり、将来の活躍の礎となるでしょう。

新たな学術国際交流協定

愛知医科大学では、さらなる国際交流の活性化を目指し、新たに3大学と学術国際交流協定を締結しました。これにより、本学の医学生が交流できる大学は9大学となりました。相互の大学の教員同士の確かな信頼関係のもと、今後は、学生のみに限らず教員の交流活動を通して、これらの大学とゆるぎない友好関係を着実に育んでいきたいと考えています。

- 2019年8月 シーラーズ医科大学(イラン)
- 2020年3月 キエフ医科大学(ウクライナ)
- 2020年4月 ポズナン医科大学(ポーランド)

アメリカ 南イリノイ大学(SIU)医学部



本学では、現在アメリカの南イリノイ大学(SIU)医学部との学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、例年、本学医学部学生10名程度が、同大学医学部からは4名程度の学生が留学しています。本学の学生の短期留学プログラムは、2つのコースからなっています。それぞれ英語面接により医学英語力などを見て、留学生を決定します。

■ SIU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした8週間のSIU医学部の4学年次用(日本の6学年次に相当)臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。例年、5学年次の2月から3月にかけて4名程度が留学しています。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

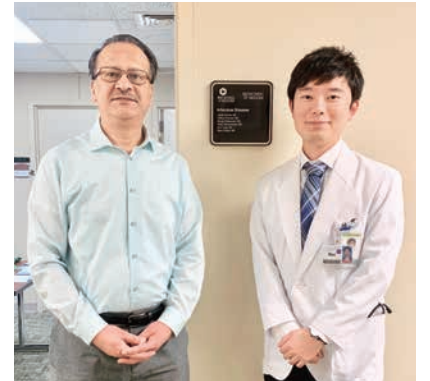
■ SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース

主に3・4学年次の学生が対象となり、主に春休みの約3週間を利用して、SIU医学部の2年生カリキュラムを受講する制度です。SIU医学部2年生と共に問題解決型学習(PBL)、チュートリアル講義などに参加します。例年、7名程度が留学しています。

→ 留学生 Message 卒業生(派遣:6学年次) 花岡 黎 (東京都 暁星高校出身)

興味があるなら、ぜひ挑戦を!

私は愛知医科大学に入学した時から、留学に行きたいという憧れがありました。3学年次でSIU医学部2学年次カリキュラム受講コースに参加でき、その時にアメリカの教育の質や学生のレベルの高さに驚かされ、自分にとって良い勉強になったので、5学年次に臨床実習選択コースにも挑戦しました。このコースでは自分が実習したい診療科を選択することができます。私は内科系の診療科に興味があり、感染症内科、血液腫瘍内科、神経科の3つの科で実習をしました。中でも血液腫瘍内科は、抗癌剤を使用するほぼ全ての部位の癌の患者さんを診ており、副作用の管理も含め様々な癌の治療を学ぶことができ、とても興味深かったです。もちろん、診療科の選択は一般外科や整形外科などの外科系もできますし、日本ではあまり馴染みがないかもしれませんが、地域に根ざして幅広く診療を行う家庭医も選択できます。実習は、当たり前ですが全て英語で行わなければなりません、言葉以外のコミュニケーションも使いながら、患者さんと先生と良い関係を築き、苦勞を乗り越えたという経験は、間違いなく自分の自信になります。環境を変えることは自分を変えるきっかけになると言えるのではないのでしょうか? 少しでも留学に興味のある方はぜひ挑戦してみてください!



アメリカ バーモント大学(UVM)医学部



本学では、2017年11月、アメリカのバーモント大学と学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。同大学が所在するバーリントンは東海岸北部の学園都市で、生活しやすい環境の中、若干名の本学医学部学生が臨床実習を行っています。また、同大学医学部からも若干名の学生が短期留学します。

→ 留学生 Message Nathaniel Sugiyama, Fran Riley

Given our interest in health care systems, particularly in Japan's world class nationalized system, our love of exploring new cultures, and our desire to visit a medical university that managed high levels of care, we jumped at the opportunity to visit the Aichi Medical University. We spent one week in the Surgical Pathology Department, and one week with the Anesthesiology Department and the Pathology Department. We cannot speak highly enough about the departments that hosted us. We thoroughly enjoyed our time at Aichi Medical University and would recommend our colleagues to visit as well. Furthermore, the time we spent with the Aichi Medical School students and the other visiting international medical students expanded our global perspectives and created lifetime connections. We are glad we had the fortune to spend our time at the Aichi Medical University and would gladly do it all over again! Thank you for your generosity and hospitality! We hope you will visit us in Vermont, USA soon!

■ UVM医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。また、日本の他大学の医学部学生と共に実習することとなります。このコースへの参加は、本学で6学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



ドイツ ルール大学(RUB)医学部

ドイツのルール大学医学部とは、2012年1月に学術国際交流協定を締結し、以来活発な相互交流が行われています。同大学とは、学内サークルHIAMU(Heart in Aichi Medical University)を中心に、学生が主体的に交流活動を行っており、同大学の内科・外科などで、例年2名程度の本学医学部学生が臨床実習を行っています。また、同大学医学部からも2名程度の学生が短期留学します。

 →  留学生 Message

卒業生(派遣:6学年次) 久徳 綾香
(愛知県 菊里高校出身)

ドイツのエッセンにあるRuhrlandklinikにおいて4週間の臨床実習留学をさせて頂きました。Ruhrlandklinikは呼吸器疾患の専門病院であり、今回は閉塞性疾患部門で2週間、間質性疾患部門と病理部で各1週間の実習を行いました。実習中まず第一に感じたこととして、ドイツでは日本での実習に比べ学生が行うことができる内容が幅広く、ベッドサイドでの手技を多く経験できることがあります。特に驚いたのは、入院されている患者さんの採血が学生の仕事とされていた点です。私自身も指導医のチェックを数回受けた後は、1人で患者さんの部屋へ出向き、採血を行いました。初めは戸惑いもありましたが、いざ挑戦してみると緊張はするものの決して難しいことではなく、日本では学生としてなかなか行えないことでもあるため、大変良い経験になりました。手技中の細かな気遣いに気付けたことも、見学するだけでなく、自ら行なったからこそ収穫だと感じています。第二に、実習中どの科を回っている時でも、疑問点がすぐに質問できる雰囲気であり、また先生方もいつでもその質問にとても気さくに答えてくださいました。このおかげで臆せず質問することができ、ドイツ語での診療について行くことができました。しかし逆に、自ら質問しなければ学べる内容はかなり少なくなったであろうことも確かで、実習の充実度が学生側の意欲によって大きく左右されると言えます。ここで、学ぼうとしなければ学べない!と気づけたことは、帰国後の本学での実習においても非常に役立っています。



■RUB医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

Sophie Wollnitzer

As an exchange student from Ruhr-University Bochum in Germany, I spent four weeks in the Gastroenterology Department at the Aichi Medical University Hospital. Most of the time I was in the Endoscopy Center and it was a great experience of clinical practice abroad. Everyone was so kind and explained and translated everything for me. They showed me different treatments from polypectomy to ESD (Endoscopic Submucosal Dissection) and I got to know the differences and similarities compared to the gastroenterology in Germany and the German medical system. Additionally to the medical experience, doctors and students introduced me to typical food and showed me sights around the area. It was so nice to spend time with them and to be integrated in life in Japan. All in all it is an amazing opportunity to spend some time abroad, get to know medicine in Japan, and also get to know Japanese culture and be overwhelmed by Japanese hospitality.



タイ コンケン大学(KKU)医学部

世界のあらゆる地域の医療や医学教育の現場を経験することを目指してタイ コンケンに位置するコンケン大学(KKU)医学部と、2011年11月に学術国際交流協定を締結し、積極的に学生等の交流を推進しています。2012年度に開始された学生等の交流も既に10年目となり、KKU医学部との関係は成熟し、例年、同大学医学部にて10名までの医学部学生が短期留学しています。また、同大学医学部からは数名の学生が短期留学します。今後も、学生、若手医師、研究者と幅広い交流を予定しており、交流のますますの発展が期待できます。

 →  留学生 Message

Waratchaya Fungjai

I had a chance to do a medical elective at Aichi Medical University. I have been staying for four weeks. I was in Internal Medicine (Cardiology) for two weeks and Surgery (Cardiac Surgery) for another two weeks. It was a great experience to be here. I have learnt about the difference of medical care in Thailand and Japan, seen many high-tech equipments in the Operating and the Endovascular Intervention Center, and also had a lot of experience and learnt about Japanese culture and people. I made many friends, and the staff members were very nice and hardworking. I would like to thank everyone for teaching and taking care of me during my stay. All these experiences at Aichi Medical University will become great memories of my life.



■KKU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



ポーランド ウッチ医科大学(MUL)医学部

ポーランドのウッチ医科大学とは、2016年2月に学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。例年、相互の大学から4名までの医学部学生が短期留学しています。2019年度からは、相互関係の範囲を拡大し、新たに教員などの交流プログラムにも参加しています。

 →  留学生 Message

Bartosz Gronkiewicz

I was given an opportunity to study for two months in four different departments in Aichi Medical University: Plastic and Reconstructive Surgery, Cardiology, Anesthesiology, and Cardiac Surgery. In all of them I had a chance to assist doctors during medical procedures, and thanks to their helpfulness I have highly improved my medical skills. During my stay I have also learnt a lot about Japanese culture and met a lot of wonderful people. It was an extremely valuable experience, and I strongly recommend everyone to take part in students exchange program!



■MUL医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

ポーランド ポズナン医科大学(PUMS)医学部

ポーランドのポズナン医科大学とは、2020年4月に学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心としたプログラムを立案し、今後相互交流をスタートさせます。

■PUMS医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)としても認められます。

韓国 東亜大学校医科大学

愛知医科大学では、南イリノイ大学(アメリカ)を始め、複数の学術国際交流協定大学と学生の交流を中心に活発に国際交流を行ってきておりますが、2015年5月、東亜大学校医科大学(韓国)と医学生が交流できる大学として4大学目となる学術国際交流協定を締結しました。2016年度は同大学から研究者を受入れ、相互の国際的協力を促進する一助となりました。今後は学生の交流活動を含めたより良いプログラムの立案・実施に向けて引き続き協議していきます。

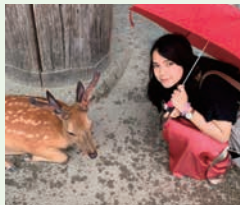


TOPICS

愛知医科大学では、学術国際交流協定を締結している大学のほか、より国際化に対応するため、協定大学以外からも留学生を受け入れています。

Cyberjaya University College of Medical Sciences
留学生 Message Fatin Izlaili Zaini

Hello! I am Laili from Malaysia, and I spent in the Neurology Department for three weeks! The doctors there were very passionate about teaching and translated topics whenever they could to make sure I understood. Aside from following ward rounds, I also had the chance to attend many conferences. This way, I managed to learn the ways of approach of diagnosis to neurological diseases and their rationale, which include investigation and treatment. This is my second time as an exchange student, and I strongly recommend everyone of you to apply for a foreign exchange program if you have the opportunity. You will not only strengthen your textbook knowledge but also be able to improve your language and communication skills. Learning about different culture and lifestyle will develop your tolerance and understanding of a different community. Most of all, you will make unforgettable memories with new friends!! My advice is to keep an open mind, be assertive, and take any opportunity you get!



University of Otago
留学生 Message Aidan Smith

Hello, my name is Aidan Smith and I am a medical student from New Zealand's University of Otago. I spent four weeks studying at the Aichi Medical University Hospital. It has been a fantastic experience observing Japanese medicine under the supervision of the Dermatology and Otorhinolaryngology Departments, as I have been able to witness a variety of medical conditions and procedures during my time in Japan while also learning about the culture and people of this wonderful country. Both the doctors and university students (HIAMU, Aichi Medical University's student outreach group in particular) have been more welcoming and friendly than I could have ever imagined, and I thank everyone that has been so kind from the bottom of my heart. I have thoroughly enjoyed my stay in Japan both inside the hospital and while visiting other cities like Nagoya, Tokyo and Kyoto, and I will most definitely be recommending the Aichi Medical University Hospital to other New Zealand students when I return.



学修施設



総合学術情報センター

総合学術情報センターでは、知の拠点として、様々な媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けるとともに、学生がICTを活用して「自ら学修し、自ら気づき、自ら成長する」拠点としても整備されています。センターには、図書館、マルチメディア教室など、学生の学修スタイルに合わせて学べる空間が広がっています。

図書館では、エントランスの吹き抜けにみられる開放的な空間設計を基本とし、閲覧席、個人ブース、利用者用パソコン、グループ学習室など、快適な学修環境を備えています。

館内の利用者端末や無線LAN接続により、電子ジャーナル・電子ブック(インターネットで閲覧する学術雑誌・書籍)や情報検索データベースにアクセスすることができます。

図書館利用ガイダンス、各種データベースや電子ジャーナルの利用講習会を通して、学生の情報リテラシー(活用能力)の養成にも精力的に取り組んでいます。また、土日・祝日開館、地域住民への施設

開放、近隣公共図書館との連携による健康支援事業(めりーらいん)の推進など、様々な学修支援にも積極的に取り組んでいます。

マルチメディア教室では、1人1台の端末(パソコン)を設置し、どの席からでも授業で使われる動画や画像の資料が見やすくなるよう、前方に大型スクリーン(100インチ)、学生卓に小型モニター(17インチ)をそれぞれ設置しています。この教室の他にも、無線LANによるレイアウト自在の少人数セミナー室や、常時開放のオープン利用室には、個室感覚で端末(パソコン)を利用できるタイプと、グループ学習での利用ができるタイプがあります。用途

に応じていつでも自由に利用できます。ICTを活用し、eポートフォリオの作成、授業で使った講義資料などがインターネットを使って、復習できるeラーニングシステムを提供しています。また、レポート作成に使われる文書作成ソフト、医療現場で使われる医療英語(英単語・イディオム)を修得する英語学習ソフト、医学や看護学の統計解析に欠かせない専用処理ソフトなど、授業や自主学習、問題解決型学修(少人数で課題を達成していく学修手法)で活用できるソフトウェアを数多く用意しています。様々なご質問にはセンタースタッフが丁寧にお応えし、サポートします。



医心館

充実した学修環境を提供する「医心館」

大学本館に隣接する、グループ学習および個人学習のいずれにも対応した学修環境を持つ「医心館」は、主に医学部6学年次生および看護学部4学年次生が国家試験に向けてお互いにディスカッションでき

るグループ学習の場所として利用可能な35室のセミナー室があるほか、個人ブースで学習できる視聴覚室があります。

セミナー室

国家試験合格に向けてグループ学習をするために、6学年次生が利用。4月から

医師国家試験が終了するまでの期間、毎日7時～24時まで使用することができます。国家試験に向けてお互いにディスカッションしながら学修することで学力の向上を図っています。

医学教育センター

医学教育センターは、医学教育に関する情報収集および分析、教員の教育評価システムの構築および教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)の企画・実施などを行い、医学教育の改善・改革を図ることを目的としています。

センター(大学本館7階)には、教員室、会議室、学生スペースなどを備え、医学教育活動の拠点として活用されています。こうした環境のもとで、本学に最適な教育・学修方法を教員と学生が一緒になって考えていきます。

主な活動としては、カリキュラム改革に向けての調査・研究、教員のFD、学修者評価の質、学修環境の充実、成績不振者に対する総合的な学修支援活動のみならず学修者のニーズに応じた潜在能力の開発支援などが挙げられます。

本館セミナー室

大学本館2階・3階のセミナー室は20室あります。主に3学年次までの学生が使用することができ、グループでのレポート作成やテスト前のグループ学習などのために使用されています。各室の収容人数は10名程度です。使用できる時間は8時30分～22時で、授業の空き時間や休日にも利用できる自習室の存在は貴重です。

大学本館7階は、医学部5学年次生が使用するセミナー室が2室(グループ学習室:70席、個人ブース室:60席)および、医学部4学年次生が使用するセミナー室が1室(グループ学習:36席、個人ブース:14席)が整備されています。3部屋で計180名を収容するこの広大な学習スペースでは、主に臨床実習や講義終了後のグループ学習やレポート作成などに使用されています。



本学では各教室、セミナー室にWi-Fiを整備し、授業支援システムAIDLE-KというWEBを使って授業を行うeラーニングを実施しています。講義資料の閲覧、講義の予習や復習、アンケートの回収など幅広く利用されています。学生はパソコン、タブレットを用いて、この環境を積極的に活用しています。

4

- 入学式
- 新入生ガイダンス
- 新入生研修(1学年次)
- 前学期授業開始
- 定期健康診断
- パーモント大学短期留学(6学年次)
- 交通安全講習会

5

- 解剖慰霊祭
- 早期体験実習〔シミュレーション実習〕(1学年次)
- 総合試験(5・6学年次)

6

- 早期体験実習〔看護体験実習〕(1学年次)

7

- 外来案内実習(2学年次)
- Post-CC OSCE(6学年次)
- 地域医療早期体験実習(4学年次)
- 夏季休業

8

- 夏季休業
- 共用試験CBT(4学年次)
- 西日本医科学学生総合体育大会

9

- 後学期授業開始(1～3学年次)
- 早期体験実習〔臨床科見学実習〕(1学年次)
- 地域包括ケア実習(3学年次)
- 共用試験Pre-CC OSCE(4学年次)

10

- 防災訓練
- 後学期授業開始(4～6学年次)
- 白衣式(4学年次)
- 交通安全講習会
- 総合試験(5・6学年次)

11

- 医大祭

12

- 冬季休業

1

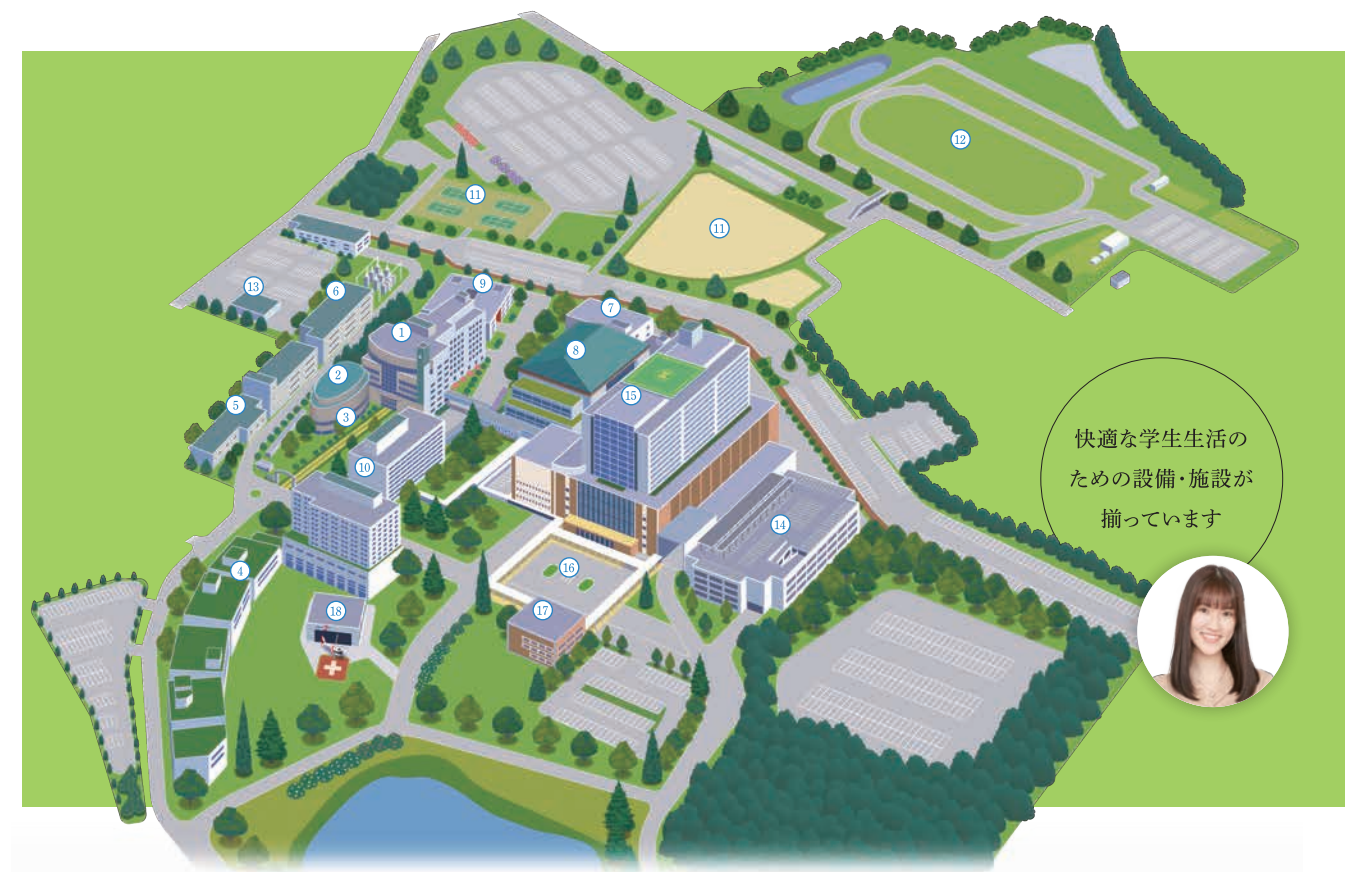
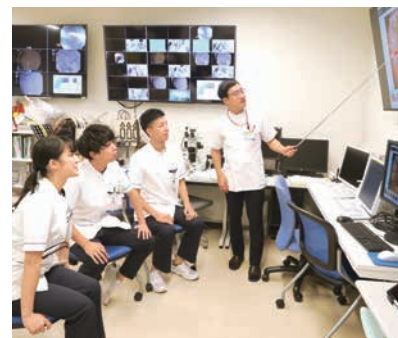
- チーム医療実習(2学年次)

2

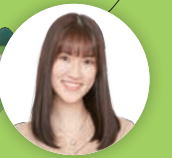
- 地域社会医学実習(2学年次)
- 医師国家試験
- 南イリノイ大学短期留学〔臨床実習選択コース〕(5学年次)
- ルール大学短期留学(5学年次)
- ウッチ医科大学短期留学(5学年次)
- コンケン大学短期留学(5学年次)

3

- 卒業証書・学位記授与式
- 医師国家試験合格発表
- 春季休業
- 南イリノイ大学短期留学〔2学年次カリキュラム受講コース〕(3・4学年次)



快適な学生生活のための設備・施設が揃っています



- ① 1号館(大学本館)
- ② たちばなホール
- ③ レストランオレンジ
- ④ 2号館(研究棟)
- ⑤ 3号館(基礎科学棟)
- ⑥ 4号館(看護学部棟)

- ⑦ 5号館(総合実験研究棟・動物実験部門)
- ⑧ 6号館(体育館・運動療育センター)
- ⑨ 7号館(医心館)
- ⑩ C棟(C病棟)・D棟(D病棟)

- ⑪ 雁又グラウンド(テニスコート・野球場)
- ⑫ 寅山グラウンド(陸上・サッカー・ラグビー・弓術場)
- ⑬ 保育所(アイキッズハウス)
- ⑭ 病院外来駐車場(立体)

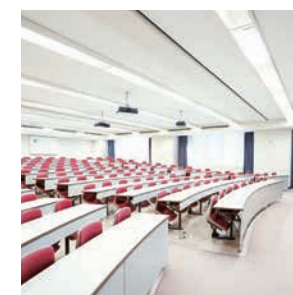
- ⑮ 中央棟(診療棟・A病棟・B病棟)
- ⑯ バスロータリー
- ⑰ アメニティ棟(立石プラザ)
- ⑱ ドクターヘリ格納庫



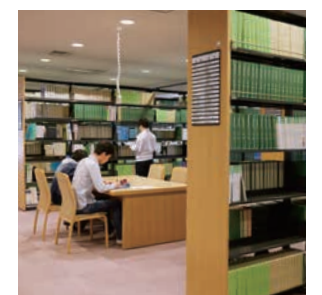
1号館(大学本館)



たちばなホール



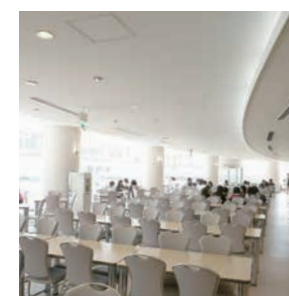
講義室



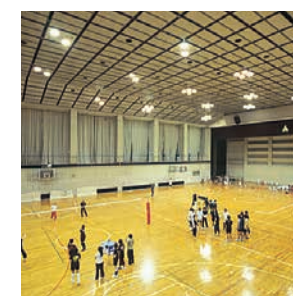
総合学術情報センター(図書館)



7号館(医心館)



レストランオレンジ



6号館(体育館)



6号館(運動療育センター)

多くの学生が
クラブ&サークルに所属しています

クラブ&サークル活動が盛んなことは、愛知医科大学の伝統です。
学年を越えて趣味や興味を共有できる仲間と出会い、ともに熱中できる有意義な時間を過ごせます。



Volleyball Club



Kendo Club



HIAMU (Heart in Aichi Medical University)



Archery Club



Track and Field Club



ACSIS (Aichi Clinical Skills Improving Society)



Golf Club



Basketball Club



Snowboard Club



Rugby Football Club



Handball Club

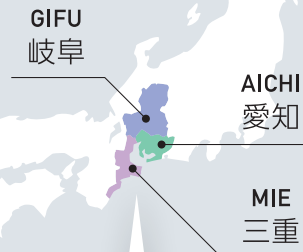
クラブ&サークル一覧

- | | |
|-----------------|--|
| ■アイスホッケー部 | ■バドミントン部 |
| ■弓術部(和弓・アーチェリー) | ■バレーボール部 |
| ■軽音楽部 | ■ハンドボール部 |
| ■剣道部 | ■ボウリング部 |
| ■硬式庭球部 | ■ラグビーフットボール部 |
| ■硬式野球部 | ■陸上競技部 |
| ■ゴルフ部 | ■ワンダーフォーゲル部 |
| ■サッカー部 | ■HIAMU (Heart in Aichi Medical University) |
| ■水泳部 | ■合気道部 |
| ■スキー部 | ■ACSIS (Aichi Clinical Skills Improving Society) |
| ■ボード部 | ■アンサンブル同好会 |
| ■ソフトテニス部 | ■棋道同好会 |
| ■東洋医学研究会 | ■MSC (Medical Science Club) |
| ■バスケットボール部 | ■卓球同好会 |

AREA INFORMATION

東海3県の様々なエリアへ 気軽に出かけられるロケーションです

キャンパスのある愛知県長久手市からは、
隣接する名古屋市へのアクセスも快適。
さらに、文化や歴史を感じる観光スポットから
アミューズメント施設まで、
東海3県の様々なエリアへ気軽に出かけられる
便利なロケーションです。



周辺エリア紹介



ナガシマスパーランド
ジェットコースターをはじめ、
多種多様なアトラクションが揃う
日本最大級の遊園地です。



鈴鹿サーキット
毎年、F1が開催される本格的な
レーシングコースがあり、他にも
遊園地やプール、キャンプも
楽しめます。



伊勢神宮・おかげ横町
約2000年の歴史を有する伊
勢神宮。おかげ横町は食べ歩
きやショッピングも充実。

GIFU
岐阜県



白川郷〈世界文化遺産〉
合掌造りの集落群は、世界文
化遺産にも登録。昔ながらの
農村風景が広がっています。



飛騨高山
江戸時代以来の城下町、商家
町が今も残り、「飛騨の小京
都」と呼ばれています。

愛知医科大学
愛知医科大学病院



名古屋城
尾張徳川家の居城として400
年以上にわたって市民に親し
まれている歴史的名所です。

MIE
三重県



ラグーナテンボス
エンターテインメントやショッ
ピング、温泉などを満喫でき
る総合マリンリゾートです。

長久手エリア

静かな環境ながら 多彩な便利施設がいっぱい

藤が丘・長久手周辺に続々と新しいお店が誕生。
ますます活気づいてきました。
学校帰りに買い物もできアフタースクールも楽しめます！



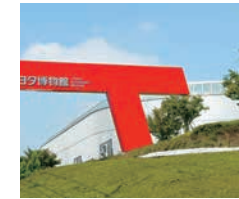
愛・地球博記念公園
(モリコロパーク)

愛知万博長久手会場の跡地に
オープンした総合公園。万博でも
人気を集めたサツキとメイの家を
はじめ、2022年秋には「ジブリ
パーク」も開業予定です。



藤が丘effe

藤が丘駅前の商業施設。「成城
石井」や「スターバックスコー
ヒー」など各種食品・飲食店のほ
か、ヘアサロンもあります。



トヨタ博物館

ガソリン自動車が誕生した19世
紀末から20世紀の自動車の歴史
を体系的に展示した自動車博
物館です。

1学年次
姫野 大誠・姫野 由誠
(静岡県 浜松北高校出身)



藤が丘駅にも、大学にもほど近い、閑静な住宅街で
部屋を借り、兄弟一緒に学生生活を過ごしています。
近くにはIKEAやおしゃれなカフェなども多く、暮らすに
はとても便利な場所だと感じています。



リニモ(東部丘陵線)

磁気浮上式システムによる日本
初の本格的な営業路線として
開通。名古屋市の藤が丘駅と豊
田市の八草駅を結んでいます。



「藤が丘」駅から
名鉄バスで約15分。
地下鉄東山線「藤が丘」駅から
愛知医科大学までは、
名鉄バスで約15分です。

愛知医科大学のある長久手市はどんな街？

愛知医科大学を始め市内に4大学、さらに周辺にも多くの大学が集まる
県内有数の文教エリアです。最近では大型商業施設も次々とオープンする
など、若いファミリー層からも人気の街として、ますます成長を続けています。
豊かな自然と、ニュータウンとしての快適性が共存する長久手市は、じっ
くり勉強に取り組むのにも、心地良く暮らすのにも適した環境です。

市民の平均年齢の若さ	人口の自然増加率 (出生数-死亡数)	住みよさランキング2020 「総合評価」
全国 第1位	全国 第1位	全国第9位 第1位 (東海地区)
日本一 若い街 38.6歳		

参考資料 ●市民の平均年齢(2015年国勢調査) ●住民基本台帳に基づく人口動態(2016年総務省)
●住みよさランキング2020(東洋経済新報社)

名古屋エリア

2027年にリニア中央新幹線が開業予定 名古屋がますます便利に、快適に〈名古屋↔品川 40分〉

藤が丘から地下鉄東山線で名古屋の都心に直結。
高層ビルが続々とオープンするなど、発展を続ける名古屋駅周辺や、
デパート・ブランドショップが集結する栄などへのアクセスも便利です。



JRゲートタワー
2017年4月、JR名古屋駅に直結す
る「JRセントラルタワーズ」の隣に
オープン。ホテルやデパート、レスト
ランなどの施設が揃っています。



グローバルゲート
2017年10月、名古屋駅から南に1
駅の、あおなみ線「ささしまライブ」
駅前にオープン。商業施設やホテル
、オフィスなどが入っています。



レゴランド®・ジャパン
レゴランドが日本に初進出。40種
類以上のアトラクションのほか、シ
アター、レストラン、ショップなどが
揃っています。

1学年次
北村 志おり
(愛知県 愛知淑徳高校出身)



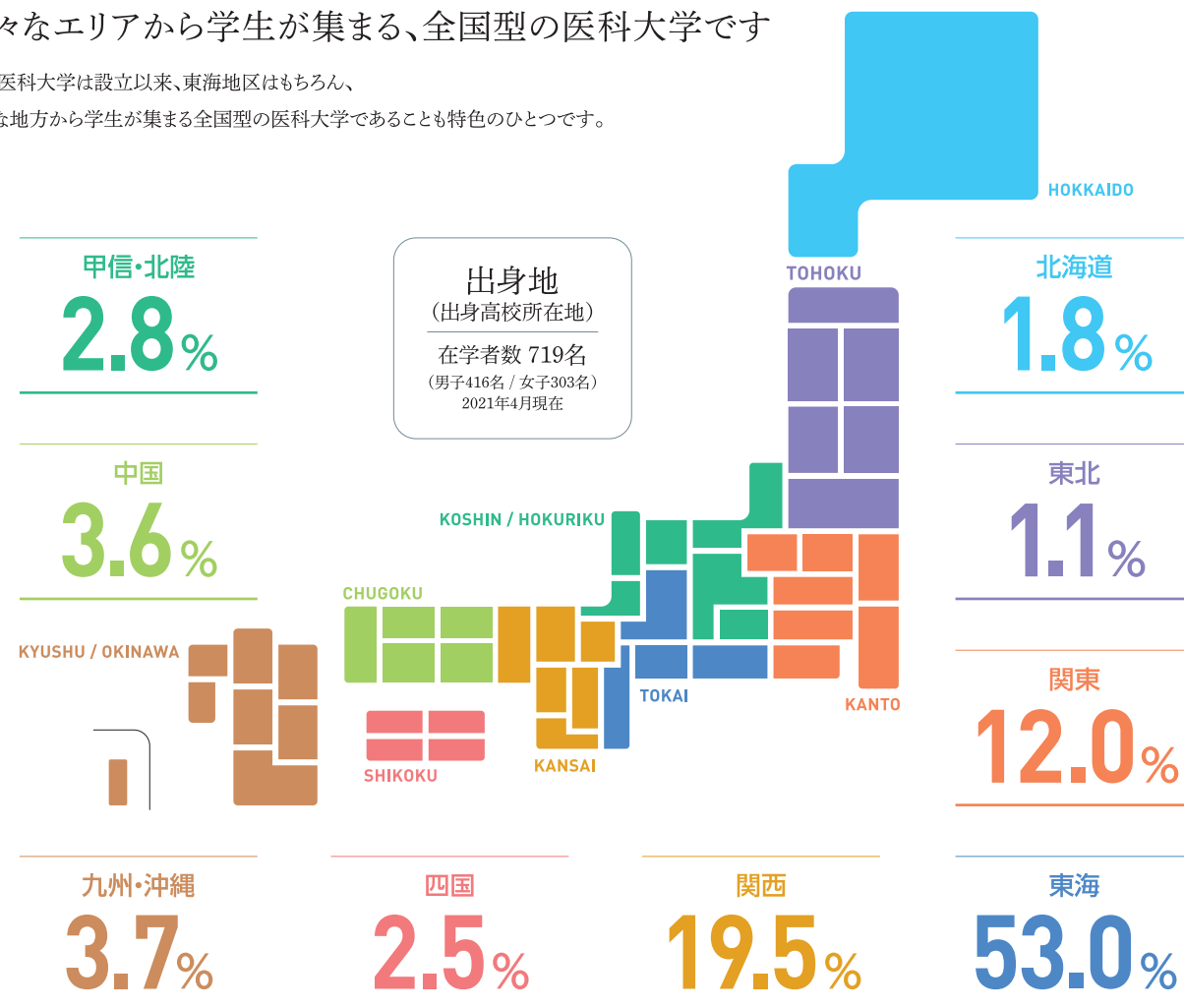
リニューアルした「名古屋テレビ塔」やおしゃれなカ
フェが並ぶ久屋大通公園など、名古屋の街はどんどん
進化しています。藤が丘駅周辺にも素敵な店がたくさんあ
って、毎日の通学も楽しいです！

NAGOYA AREA

様々なエリアから学生が集まる、全国型の医科大学です

愛知医科大学は設立以来、東海地区はもちろん、

様々な地方から学生が集まる全国型の医科大学であることも特色のひとつです。



from HOKKAIDO

友人と助け合いながら
楽しい学生生活を
送れると思います



愛知医科大学に通っている兄から
学生生活や大学の雰囲気について聞き、
自分も入学したいと思いました。
長久手市や名古屋は、
都会と自然が程よく共存していて、
とても暮らしやすいです。

2学年次 鰐渕 桃子
(北海道 藤女子高校出身)

from TOKYO

一人暮らしは
最初は大変でしたが
今はもう慣れて快適です



将来、救命救急医になりたかったので、
ドクターヘリが配置されている
愛知医科大学は魅力的に感じました。
大学周辺は自然が豊かで環境も良く、
東京や大阪方面にも
アクセスしやすい立地です。

3学年次 村松 優樹
(東京都 桐朋高校出身)

from WAKAYAMA

長久手周辺は
とても暮らしやすく
生活面の心配もありません



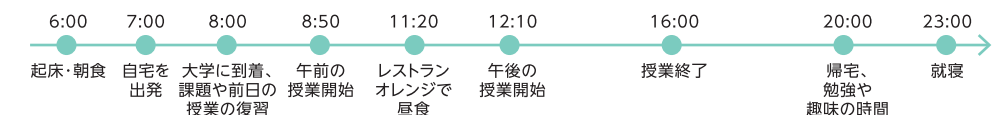
住まいから大学までは自転車約10分。
大学はもちろん、藤が丘駅にも近く、
地下鉄1本で名古屋の都心に
気軽に行けるので、とても便利です。
遠方から入学しても
特に困ることはありません！

4学年次 石倉 修誠
(和歌山県 智辯学園和歌山高校出身)

メリハリのある、とても充実した毎日です

愛知医科大学は学生同士の仲が良く、
勉強する時は皆で協力しながら一生懸命努力して、
遊ぶ時は思いきり楽しむといった
メリハリのある毎日がとても充実しています。
将来的に医師として、どのような方法で
社会貢献できるのかを、今、考えています。
そのために、日本の医療制度づくりに携わっている
医系技官の方にお話を伺いに行ったり、
ボランティア医師による生活医療相談の支援事業や
児童養護施設を見学させていただいたりしています。
多くの分野での活動を知ること、
医療福祉を勉強する上でとても興味深く、参考になります。

3学年次 堀田 万理恵
(愛知県 愛知淑徳高校出身)



医師としての力をしっかり伸ばせる環境です

祖父や父が医師として働く姿を見て、育ちました。
それだけに、低学年次から医師としての
学びができる環境はとても魅力的だと感じています。
入学後は剣道部に所属し、
学年を越えて多くの先輩や後輩とも触れあう中で
幅広い経験を積み重ねることができました。
病院での臨床実習も本格的に始まり、
毎日多くのことが学べるので、
とても充実した日々を過ごしています。
国家試験についても充実したサポートがあるので、
とても心強いです。

5学年次 藤關 義晴
(奈良県 奈良学園高校出身)



THE世界大学ランキング日本版2021 教育リソース分野で14位にランクイン

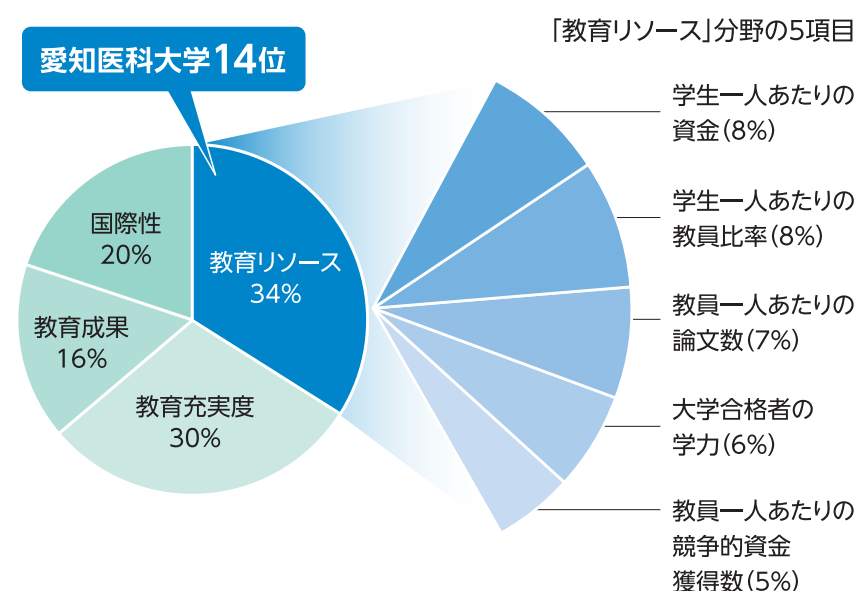
「THE世界大学ランキング日本版」とは、

従来の大学ランキングでは見えにくかった「教育力」に着目し、日本の大学の真の実力を世界へ発信するものです。

「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」という4分野と16項目で構成され、大学の教育力を総合的に表しています。

教育リソース

THE世界大学ランキング日本版のランキング指標のうち、「教育リソース」は充実した教育を行うための環境が整っているかどうかを指標化したものです。

THE 世界大学ランキング日本版2021
ランキング対象校は278校

順位	大学名	教育リソース
1	東京医科歯科大学	80.3
2	兵庫医科大学	80.0
3	京都府立医科大学	79.6
4	東京大学	79.1
5	東北大学	78.4
...	...	...
12	日本医科大学	75.4
13	札幌医科大学	75.0
14	愛知医科大学	73.9
...	...	...

愛知医科大学メディカルセンター開院



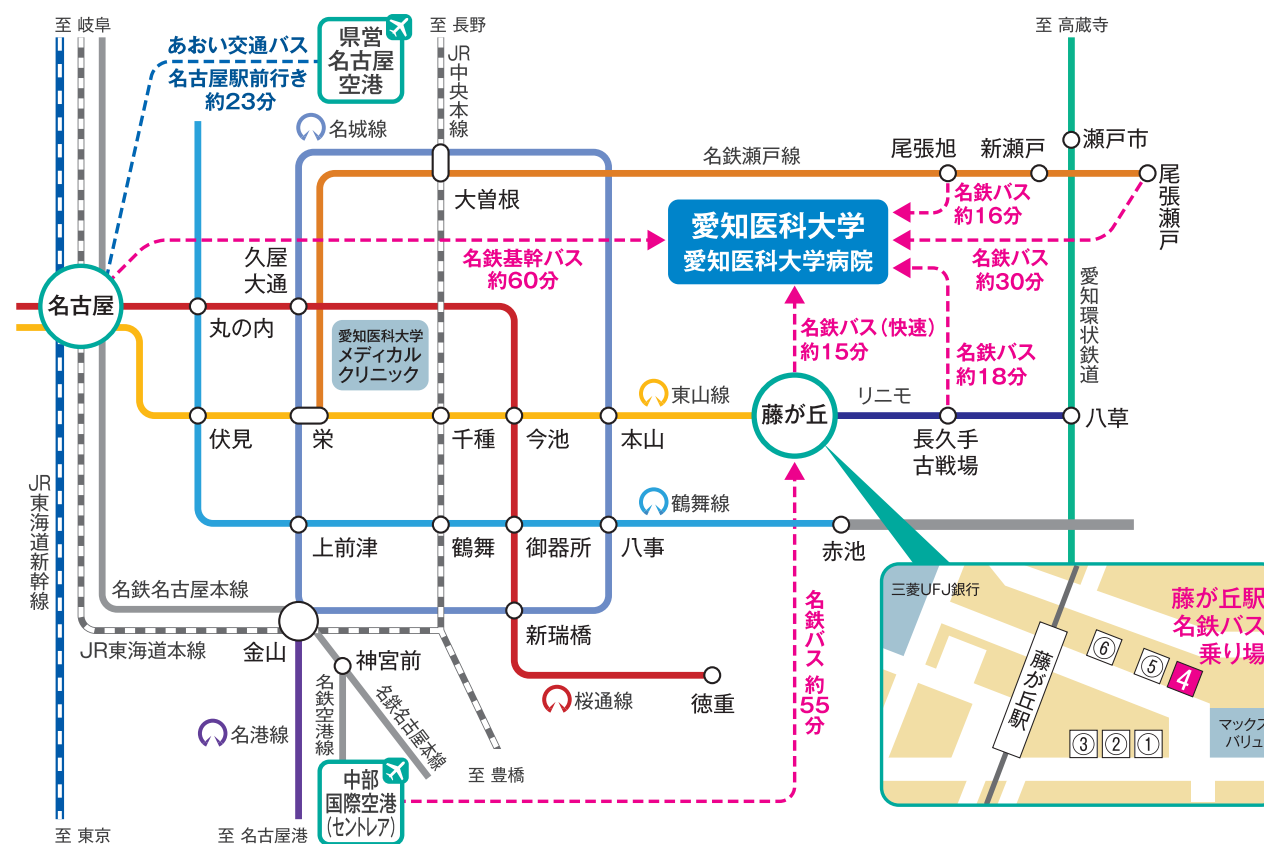
2021年4月1日、高度急性期を担う愛知医科大学病院に加え、岡崎市北部に愛知医科大学メディカルセンターを開院しました。

本センターでは岡崎市、豊田市をはじめとする周辺の医療機関とともに、2次救急患者さんから慢性期に至るまでの幅広い患者さんを対象に、大学分院ならではの質の高い医療を提供します。

診療にあたっては内科、整形外科や皮膚科、泌尿器科など、生活に密着した診療部門を設置。また急性期医療で救命できた患者さんや、がん治療が成功した患者さんのリハビリ医療を充実させるとともに、入院での透析をはじめ身近で質の高い医療を長く受けられる病院を目指しています。

公共交通機関でお越しの場合

名古屋駅から「地下鉄 東山線」で「藤が丘」駅まで25分、名鉄バス乗車約15分。
(タクシーの場合、「藤が丘」駅から約10分。)



自動車でお越しの場合

有料道路利用

- 東名高速道路「名古屋I.C.」から約15分、または名古屋瀬戸道路「長久手I.C.」から約10分。
- 名古屋第二環状自動車道「本郷I.C.」から約15分。
- 東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から約30分。



愛知医科大学・愛知医科大学病院